

目 次

目次欄（青字）をクリックすると、該当ページに移動します。

| | |
|---------------------------------------|--------------------|
| 出席委員 | 1 |
| 保健福祉部の決算審査 | 4 |
| 町民生活部の決算審査 | 35 |
| 教育部の決算審査 | 57 |
| 総括質疑及び現地調査箇所の選定 | 87 |

※本会議録で使用している漢字は、汎用性等を考慮し、「JIS 第1水準漢字」を使用しています。

このため、人名や地名などの固有名詞等において、実際の漢字とは異なる標記となっている場合があります。

令和7年9月8日（月曜日）

出席委員（15名）

| | | | | | | |
|------|-----|-----|---|----|----|---|
| 委員長 | 伊藤 | 司 | 君 | | | |
| 副委員長 | 羽川 | 喜富 | 君 | | | |
| 委員 | 郷右近 | 佑悟 | 君 | 阿部 | 彦忠 | 君 |
| | 須田 | 聡宏 | 君 | 高木 | 綾子 | 君 |
| | 皆川 | 祐治 | 君 | 鈴木 | 晴子 | 君 |
| | 金萬 | 文雄 | 君 | 土村 | 秀俊 | 君 |
| | 浅川 | 紀明 | 君 | 今野 | 隆之 | 君 |
| | 小渕 | 洋一郎 | 君 | 高久 | 時男 | 君 |
| | 永野 | 渉 | 君 | | | |

欠席委員（なし）

説明のため出席した者

保健福祉部

地域福祉課

| | | | |
|--------------|----|----|---|
| 課長補佐兼福祉総務係長 | 櫻井 | 貴徳 | 君 |
| 課長補佐兼障がい福祉係長 | 千葉 | 暁子 | 君 |
| 介護福祉係長 | 八巻 | 梓 | 君 |

健康推進課

| | | | |
|----------------|----|-----|---|
| 課長 | 小原 | 晶子 | 君 |
| 課長補佐兼健康総務係長 | 伊藤 | めぐみ | 君 |
| 長生き支援係長 | 及川 | 直利 | 君 |
| 子ども家庭センター所長 | 柏崎 | 裕子 | 君 |
| 子ども家庭センター副所長 | 岩田 | 和子 | 君 |
| 子ども家庭センター所長補佐兼 | | | |

令和7年 9月決算審査特別委員会会議録（9月8日 月曜日分）

| | |
|---------------|--------|
| 親子保健係長 | 守山明子君 |
| 子ども家庭係長 | 庄司千春君 |
| 子ども支援課 | |
| 課長 | 加藤典子君 |
| 課長補佐兼子ども企画係長 | 成田奈穂美君 |
| 課長補佐兼保育係長 | 平塚慎也君 |
| 菅谷台保育所長 | 澁谷英子君 |
| 町民生活部 | |
| 部長 | 堀越伸二君 |
| 町民課 | |
| 課長 | 吉田雄一君 |
| 課長補佐兼戸籍住民係長 | 芳賀明英君 |
| 課長補佐兼国保年金係長 | 土屋俊介君 |
| 税務課 | |
| 課長 | 高橋活博君 |
| 収納整理係長 | 小畑貴信君 |
| 町民税係長 | 大友康弘君 |
| 資産税係長 | 内田由希子君 |
| 生活環境課 | |
| 課長 | 鈴木健二君 |
| 課長補佐兼環境衛生係長 | 浅野智寛君 |
| 公共交通係長兼町民協働係長 | 畠中邦博君 |
| 教育委員会 | |
| 教育部 | |
| 部長 | 阿部昭博君 |
| 教育総務課 | |
| 課長兼学校給食センター所長 | 小野寺厚人君 |
| 学校給食センター所長補佐 | 上總綾君 |
| 総務学事係長 | 太田洋美君 |
| 課長補佐兼教育指導係長 | 島津恵子君 |

令和7年 9月決算審査特別委員会会議録（9月8日 月曜日分）

学 校 施 設 係 長

菅 澤 誠 也 君

生涯学習課

課 長

古 澤 晃 一 君

課長補佐兼生涯学習係長

武 田 裕 光 君

課長補佐兼文化振興・リフノス係長

鈴 木 厚 広 君

事務局職員出席者

事 務 局 長

太 田 健 二 君

議 事 係 長

戸 石 美 佳 君

主 査

鈴 木 則 昭 君

午前9時27分 開 議

○委員長（伊藤 司君） おはようございます。

これより決算審査特別委員会を再開します。

ただいまの出席委員は15名です。

審査日程表により進めてまいりますので、円滑な議事運営に御協力願います。

暑い方は上着を脱ぐことを許可します。

審査に入る前に申し上げます。

質疑にあつては、1人2問から3問程度とし、それ以上の質疑がある場合には、質疑が一巡した後にお願いします。

なお、質疑は分かりやすく簡潔に行うとともに、決算審査の趣旨を逸脱しないようお願いします。

また、質問が重複しないよう、できるだけ関連質疑で対応してください。

それでは、審査日程表により、**保健福祉部の決算審査**を始めます。

子ども支援課長、所管事項の内容を説明願います。

○子ども支援課長（加藤典子君） おはようございます。

それでは、保健福祉部所管事務の令和6年度歳入歳出決算の内容につきまして、主要な施策の成果に関する説明書により御説明申し上げます。

初めに、37ページを御覧ください。

2款1項11目令和6年度物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金事業費のうち、保健福祉部所管の主な事業についてでございますが、2の物価高騰子育て世帯応援米支給事業につきましては、食料品価格の高騰の影響を受けた子育て世帯に対し、未就学児・児童1人当たりお米5キログラムを配布しております。なお、令和7年度に事業執行となることが見込まれたことから488万3,000円を繰り越しております。

3の保育施設等給食賄材料費等補助金交付事業につきましては、原油価格及び物価高騰により運営に大きな影響を受けた町内保育施設等に対し、影響額を補填することで給食費の増額を抑え、保育施設を利用している児童の保護者を経済的に支援し、安定かつ継続的な給食の提供を図るために補助金を交付しております。

38ページを御覧ください。

4の高齢者生活支援事業につきましては、エネルギー・食料品価格の物価高騰の影響を受け

た町内在住75歳以上の高齢者を対象に、日用品セットを給付しております。なお、令和7年度に事業執行となることが見込まれたことから2,591万9,000円を繰り越しております。

39ページを御覧ください。

2款1項12目物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金事業費繰越分についてでございますが、1の子育て世帯お米券配布事業につきましては、国が掲げるデフレ完全脱却のため総合経済対策の対応として、未就学児養育世帯の生活支援を目的とし、令和5年度に引き続きお米券を配布しております。

2の高齢者生活支援事業につきましては、エネルギー・食料品価格の物価高騰の影響を受け、た町内在住75歳以上の高齢者を対象に、日用品を給付しております。

68ページを御覧ください。

3款1項1目社会福祉総務費、決算額9,921万7,000円で、前年度と比較し880万7,000円の減となっております。主な理由といたしましては、社会福祉基金への積立金の減額によるものです。

2の第4期地域福祉計画策定事業につきましては、今年度進めております第4期地域福祉計画の策定に向けた町民アンケート調査に要した経費であります。

70ページを御覧ください。

3款1項2目高齢者福祉費、決算額3,059万3,000円で、緊急通報システムの設置に関する費用及び75歳以上の高齢者長寿を祝うため、敬老祝い記念品の贈呈や敬老祝い金の支給などに要した経費であります。

73ページを御覧ください。

3款1項3目障害者福祉費、決算額10億5,063万円で、前年度と比較し7,924万7,000円の増となっております。主な理由といたしましては、障害者自立支援事業及び障害児通所支援事業の給付費増額によるものです。

74ページを御覧ください。

4の障害者自立支援事業につきましては、生活介護、共同生活援助及び就労継続支援B型をはじめとしたサービスの利用が増加したことにより増額となっております。

75ページを御覧ください。

8の障害児通所支援事業につきましては、児童発達支援及び放課後等デイサービスにおいて、利用日数が増えていることなどから給付費が増額となっております。

80ページを御覧ください。

3款1項5目保健福祉センター管理費、決算額3,893万7,000円で、前年度と比較し468万9,000円の増となっております。主な理由といたしましては、空調設備や福祉棟フロアなどの改修工事費が増額となっております。引き続き、保健福祉センター利用者の利便性を高めるとともに安全を確保するため、適切な維持管理に努めております。

83ページを御覧ください。

3款1項7目介護保険事業費、決算額3億8,432万1,000円で、前年度と比較し262万1,000円の増額となっております。介護保険法に基づく介護保険事業運営に必要となる一般会計からの繰出金で、主な理由といたしましては、サービス利用者の増により、繰出金が増額となったことによるものです。

85ページを御覧ください。

3款1項9目物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金給付事業費のうち、保健福祉部所管の事業についてでございますが、1の非課税均等割課税世帯重点支援給付金事業から、86ページ、5の重点支援地方創生臨時交付金まで、国の令和5年度予算を活用し、物価高騰の影響を受けている低所得者世帯に対する生活支援として給付金を支給したものであります。

88ページを御覧ください。

3款1項10目令和6年度物価高騰対応重点支援交付金給付事業費、決算額6,342万円につきましては、国の令和6年度予算を活用し、物価高騰の影響を受けている住民税非課税世帯に対する生活支援として給付金を支給したものであります。

89ページを御覧ください。

3款2項1目児童福祉総務費、決算額7,571万8,000円で、前年度と比較し519万円の増となっております。主な理由といたしましては、子ども支援課保育係の人件費の増によるものであります。

90ページを御覧ください。

3款2項2目児童手当費、決算額6億4,613万6,000円で、前年度と比較し8,545万9,000円の増となっております。主な理由といたしましては、令和6年10月の制度改正に伴う支給対象児童の増によるものであります。

92ページを御覧ください。

3款2項3目母子・父子福祉費、決算額426万円で、母子・父子家庭の医療費助成に要した経

費となっております。

93ページを御覧ください。

3款2項4目子ども医療費、決算額2億1,576万1,000円で、子供の健康保持につなげるとともに、子育て世帯の医療費の負担軽減のため、18歳までの児童を対象とした医療費助成に要した経費となっております。

94ページを御覧ください。

3款2項5目保育所費、決算額18億826万5,000円で、前年度と比較し5億782万8,000円の減となっております。主な理由といたしましては、令和5年度に整備いたしました2つの認定こども園の整備事業に要した経費の減によるものであります。

97ページを御覧ください。

14節菅谷台保育所の工事請負費につきましては、近年の災害級の暑さから乳幼児の健康を守ること及び健康維持のため、室内でも十分に体を動かす環境を整備することを目的に、遊戯室へのエアコン設置工事を実施したものであります。なお、キュービクル式高圧受変電設備の一部の部品が入手困難となったため、令和6年度においては前払金のみ支出し、令和7年度に709万4,000円を繰り越しております。

6の利府第二おおぞら幼稚園委託事業から、103ページ、23のイオンゆめみらい保育園利府委託事業につきましては、町内私立保育園6園、認定こども園6園及び小規模保育事業所等6園の委託に要した経費となっております。

各保育施設では、通常の保育運営のほか、延長保育促進事業、障害児保育円滑化事業、一時預かり事業、さらには産休明け保育事業、医療的ケア児の受入れなど、様々な保育ニーズに対応した事業を実施し、子供たちの健やかな成長と保護者が安心して就労できる保育環境維持に努めました。また、青山すぎのここども園及びアスク利府保育園では、地域子育て支援拠点事業を実施し、子育て中の親子が気軽に集える場として、情報の提供や相談対応を行うなど、さらなる子育て支援に努めました。

なお、令和6年度の各保育施設など在籍状況につきましては、各園の委託事業に記載しております。保育施設等の合計定員は960人と、前年度と比較し120人程度増えておりますが、これは令和6年度から2つの認定こども園が開園したことにより、保育の受け皿が増えたことによるものであります。また、年々増加する保育ニーズへ対応するため、各保育施設においては定員を超えた弾力運用を実施し、月平均928人、延べ1万1,132人の受入れを行いました。

105ページを御覧ください。

28の医療的ケア児保育支援事業につきましては、令和6年4月1日から菅谷台保育所において実施しております。医療的ケアを必要とする児童の保育受入れのために必要な看護師派遣業務委託などの要した経費となっております。

106ページを御覧ください。

3款2項6目子ども家庭センター費、決算額7,616万1,000円で、前年度と比較し668万7,000円の減となっております。主な理由といたしましては、令和6年度より子育て広場「十符っ子」が中央児童センターへあくるに移転したことに伴い、運営業務を所管替えしたことによるものであります。

110ページを御覧ください。

3款2項7目児童対策費、決算額3,345万7,000円で、前年度と比較し1,647万8,000円の増となっております。主な理由といたしましては、子ども・子育て支援事業計画策定に要した経費及び令和5年度子ども・子育て支援交付金の実績に伴う返還金によるものであります。

112ページを御覧ください。

3款2項8目児童福祉施設費、決算額3億1,227万5,000円で、前年度と比較し3億8,667万円の減となっております。主な理由といたしましては、令和6年4月1日より開館しております、利府町中央児童センターへあくるの整備に要した経費が減額となったものであります。

118ページを御覧ください。

3款2項10目出産・子育て応援交付金事業費、決算額2,801万9,000円で、妊娠期から出産・子育て期まで一貫して相談に応じ、様々なニーズに即した支援につなぐ伴走型相談支援と、妊娠時及び出産時にそれぞれ5万円を給付する経済的支援を一体的に行っております。

120ページを御覧ください。

3款2項11目子育て世帯生活支援特別給付金事業費、決算額19万円につきましては、令和5年度に実施しております新型コロナウイルス感染症セーフティネット強化交付金のうち、事務費の実績に伴う返還金であります。

122ページを御覧ください。

4款1項1目保健衛生総務費、決算額8,226万8,000円で、前年度と比較し561万4,000円の増となっております。主な理由といたしましては、人事異動に伴う職員人件費の増によるものであります。

123ページを御覧ください。

4款1項2目予防費、決算額1億6,666万3,000円で、前年度と比較し5,197万7,000円の増となっております。主な理由といたしましては、子宮頸がん予防ワクチンキャッチアップ接種者数の増加や、予防接種法の改正に伴い令和6年4月から高齢者コロナウイルスワクチン接種が定期接種となるなど、子供から高齢者までを対象とした予防接種に要した委託料が増額となったことによるものであります。

127ページを御覧ください。

4款1項3目健康増進事業費、決算額7,281万1,000円で、町民の健康づくり及び生活習慣病の予防、早期発見、重症化予防を図るため、住民健康診査やがん検診などに要した経費となっております。

131ページを御覧ください。

4款1項4目母子衛生費、決算額3,879万7,000円で、乳幼児を対象とした健康診査や発達相談などに要した経費となっております。

133ページを御覧ください。

4款1項5目母子健康費、決算額4,823万8,000円で、前年度と比較し904万1,000円の増となっております。主な理由といたしましては、産後ケア事業の拡大による利用者の増や、令和6年度より妊婦歯科健康診査事業、不妊検査費及び不妊治療費助成事業などを新たに実施したことによるものです。

138ページを御覧ください。

4款1項6目療育医療給付費、決算額170万8,000円で、身体の発育が未熟なまま生まれた子供に対しての医療費助成に要した経費となっております。

144ページを御覧ください。

4款1項11目新型コロナウイルス感染症ワクチン接種対策費、決算額3,236万4,000円については、臨時接種として実施した新型コロナウイルスワクチン接種に係る委託料及び補助金、負担金の過年度分の実績に伴う返還金であります。

続きまして、介護保険特別会計について御説明いたします。

245ページを御覧ください。

1款総務費、決算額5,995万3,000円で、前年度と比較し133万4,000円の増となっております。主な理由といたしましては、介護保険認定者が増えたことに伴い、介護認定に係る審査件数が

増となったことから、塩釜地区消防事務組合への負担金が増額となったことによるものであります。

246ページを御覧ください。

8の介護保険被保険者の状況につきましては、1号被保険者は217人増の9,558人となっております。

247ページを御覧ください。

10の要支援・要介護認定の状況につきましては、1号被保険者で67名増の1,468人となっております。

248ページを御覧ください。

2款保険給付費、決算額21億7,116万8,000円で、前年度と比較し659万7,000円の減となっております。主な理由といたしましては、居宅介護サービスにおける利用者の減に伴い給付費が減額となったことなどによるものであります。

251ページを御覧ください。

5款地域支援事業費、決算額1億2,899万9,000円で、前年度と比較し1,140万円の増となっております。高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築を推進するために要した経費で、主な理由といたしましては、要支援1、2の方などが利用する介護予防生活支援サービス事業費において、通所型サービスの利用者の増などによるものであります。

以上で、保健福祉部の概要説明を終わります。御審議のほどよろしくお願い申し上げます。

○委員長（伊藤 司君） 内容の説明が終わりましたので、直ちに質疑を行います。

質疑の発言を許します。質疑ありませんか。10番、今野隆之委員。

○今野隆之委員 私からは2点お願いします。

110ページ、111ページ、2の病児・病後児保育事業についてなんですが、町外施設と町内施設があって、町内施設については仙塩利府病院ですが、町外施設、これどこの施設になっているのか。それと、各々の利用状況をお願いします。

2点目、115ページ、6、児童クラブ土曜日等開所事業についてですが、この土曜日の利用状況を教えてください。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） ただいまの質疑に対し、当局答弁願います。子ども企画係長。

○課長補佐兼子ども企画係長（成田奈穂美君） お答えいたします。

まず、1点目の病児・病後児保育施設の町外施設について御説明いたします。

まず、施設名なんですけれども、宮城県済生会というところにあります。2か所目がこん小児科クリニックというところで、2か所で業務委託のほうを行っております。

まず、宮城県済生会のほうにおきましては、年間で4回預けております。こん小児科につきましては、年間で3回、合計で7回という実績になっております。

続きまして、2点目ですけれども、115ページ、6、児童クラブの土曜日等の開所事業についてですけれども、こちらは土曜日勤務されている方のお子さんを預かるシステムになっております。

利用状況といたしましては、各施設とも1桁台、毎週土曜日、開所は行っているんですけれども、人数的には平日の利用よりは少なく1桁、少ないところはゼロというところもあります。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 10番、今野隆之委員。

○今野隆之委員 まず1点目ですが、町外施設2か所ということで、これは病児保育なのか、病後児保育なのか。それと、仙塩利府病院については、病後児保育だと私は思っているんですけれども、計画を見ると、病児保育にしていくと、今後、そういうことで交渉か何かやっているのかなと思うんですけれども、そこら辺のところを教えてください。

次に2番目の土曜日の開所、利用状況1桁台、ゼロもあるということなんですけれども、これに対して、非常に少ないですね。この土曜日開所を、せっかく開所したんだから続けるというのはすごくいいと思うんですけれども、そこら辺、何か対策とか何か考えているのか教えてください。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 子ども企画係長。

○課長補佐兼子ども企画係長（成田奈穂美君） お答えいたします。

まず、病児・病後児保育のほうですけれども、仙塩利府病院につきましては、現在、病後児保育ということで業務委託のほうを行っております。ただ、以前から病児についてもお子さんを預かっていただきたいということで、再三の調整のほうは行っているんですけれども、ちょっとなかなか難しいということで回答のほうはいただいております。ただ、今後につきましてもぜひ、子育て支援の一つだとこちらとしても認識しておりますので、積極

的に病児のほうも開所していただけるように働きかけていきたいと考えております。

続きまして、土曜日の児童クラブの利用状況なんですけれども、昨年の決算審査並びに予算審査の際にも委員のほうから御質問を頂戴しております。

こちらの事業なんですけれども、令和4年度の5月から土曜開所ということでスタートしているんですけれども、実際に人数といたしましては少ない現状となっております。

今回、事業をスタートして3年目ということもありまして、利用されている保護者の方並びに来年新1年生になる保護者の方に土曜日の児童クラブについて、今後の利用状況、またあと何か御意見ありませんかということで、アンケートのほうを行っております、現在集計のほうを行っております。そちらのほうの回答を検討いたしまして、今後どうするか、再度調整していきたいと考えております。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 10番、今野隆之委員。

○今野隆之委員 1点目なんですけれども、町外施設は病児保育なのか、病後児保育なのか、さっき聞いたんですけれども、そののところで、あと件数は少ないのかなというふうに思うんですけれども、これ何か手続が煩雑でなかなか利用しづらいとか、そういったのというのはないのか、そこら辺のところをお願いします。

○委員長（伊藤 司君） 子ども企画係長。

○課長補佐兼子ども企画係長（成田奈穂美君） 先ほどの町外施設の部分、こちらにつきましては、病児、病後児、両方ということで委託のほうを行っている現状となっております。

預かっていただく回数なんですけれども、こちらにつきましては令和5年度と比較した際には回数のほうは増えているんですけれども、なかなか感染症とかに感染されたお子さんの部分、あと通常の風邪とかで感染されているお子さんたちの部分を預かるといった際に、保護者としては安心してお子さんを預けられる場所ということではあるんですけれども、やはり一番は御自宅のほうで保育をされている保護者の方が多いのかなというふうにこちらとしては捉えております。

登録方法につきましては、煩雑だという意見はこちらのほうには届いておりませんが、なお利用されている保護者の方とかにも、もし御意見あればこちらのほうに寄せていただけるようにということで、働きかけのほうを行っていききたいと考えております。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） ほかに質疑ありませんか。9番、浅川紀明委員。

○浅川紀明委員 3点お伺いします。

37ページ、第2項の子育て世帯にお米を支給するという事業について、（2）の表を見ると、対象者数に対して年度内に支給できたのが710人ということで非常に少ないですね。

それで、それは39ページの1項のお米券配布事業、こちらのほうで明許繰越しされた分が表示されているという認識でよろしいのでしょうか。

それと、その関係でいうと、本来予算審査のときに言うべきことだったのかもしれませんが、この目的で子育て世帯で経済的負担も大きいということでお米を配ろうということだったわけなんです、それであれば、そもそも未就学児のいる家でなくて、食べ盛りの小学生、中学生、高校生のいるところに配るべきだったんじゃないかなと、ちょっと決算とは違うんですけども、そういうふうに感じる次第なんです。もしコメントをいただければありがたいです。その辺のなぜ未就学児になったのか。

それから2番目、2番目は38ページ、第4項の75歳以上の方に生活支援物資を配るということなんです、これも令和7年3月末現在ではまだまだ十分配り終わっていないと。

それを受けて、39ページ、第2項の同じ高齢者生活支援事業ということで、これは明許繰越の分なのかなというふうに理解しようとしたんですけども、（2）の下の方の意味がちょっと分からないので、詳しく説明していただけますか。

3番目、最後ですけども、69ページ、第5項、69ページの第5項で予備費の充用ということで、引取り手のない死亡人の火葬費用としてお金が積み残されているんですけども、これは昔よく「行路行き倒れ人」とか言って、旅人が亡くなった場合みたいなことで、よくそんな表現があったんですけども、これはそもそも利府町に住民登録されている方で、遺族が引取りたくない、何かの事情があってそういった方なののでしょうか。全く身元も分からないというような人も含んでいるのでしょうか。あわせて、それぞれの人数を教えてくださいと思います。

それから、火葬した後の処置については、町営墓地に埋葬するとかしたのかなと想像するんですけども、その後の対応についても町の経費で処置されているのかなと思うのですが、その辺のところも御説明をお願いします。

○委員長（伊藤 司君） 子ども企画係長。

○課長補佐兼子ども企画係長（成田奈穂美君） まず、1点目につきましてお答えいたします。

物価高騰子育て世帯応援米の支給事業についてになるんですけども、こちら対象者、小中学生とかではなくなぜ未就学児世帯だったのかというお話なんですけれども、こちらに対しては、町といたしまして物価高騰対策、やはり子育て世帯、赤ちゃん生まれてからというのはかなり出費のほうがかかるといふ声のほう子ども支援課のほうにたくさん届いておりました。ですので、今回対象者は未就学児を養育している世帯ということで限定して配布のほうをさせていただいたところです。

また、39ページにあります、1、子育て世帯未就学児のお米券配布事業の、こちらの繰越しなんですけれども、今回お米券配布の部分とお米のほうの配布はまた違う事業となっております。

お米事業の部分なんですけれども、対象者710人ということで先ほどお話ありましたが、こちらは全体の対象者としては1,843名、そのうち3月末には710名の方に支給のほう行っております。今回J A仙台さんと契約のほう結んだところだったんですけども、やはりお米不足の中、全てを準備するのが難しいというお話をいただきまして、まず最初に710名の方に確実にお渡しをする、残りの方につきましては、新年度、4月の下旬、ゴールデンウィークの前になるんですけれども、そこから3回に分けて対象者の方には配布のほうを行っております。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 長生き支援係長。

○長生き支援係長（及川直利君） 答えいたします。

まず、38ページの（2）給付実績ということでございますが、こちらのほうは令和6年度に包括連携協定しておりますイオン東北株式会社さんのほうにお願いいたしまして、日用品のほうを配布しております。

38ページの給付実績なんですけど、対象者4,500人に対しまして、令和7年3月末、給付の実績がお店のほうで直接お渡しできた方が1,983名、まだこの時点では発送しておりませんでしたので、令和6年度の実績では1,983名配布しております。

引き続き令和7年度に繰越しいたしまして、令和7年の実績ではもう既に配布完了しております。

次に39ページ、39ページの（2）の給付実績でございますが、こちらは令和5年度より繰越ししまして、令和6年度に繰越ししまして2か年にわたって実施しております。対象者4,232名に対しまして、令和6年3月末の実績では、お店で直接お渡しした方が1,090人、発送した方

が1,106名で、合計2,196名に配布しております。令和6年度に繰越しさせていただきまして、令和6年度に配布しましたのが1,241名、発送しましたのが209名、合計1,450名ということで、令和5年度、令和6年度の2か年で実施しました合計としまして、店舗引渡しでは2,331名、発送で1,315名、合わせて3,646名ということで配布しております。申請率は86.1%というふうになっております。

以上でございます。

○委員長（伊藤 司君） 福祉総務係長。

○課長補佐兼福祉総務係長（櫻井貴徳君） 3点目についてお答えいたします。

引取り手のない死亡人の火葬費用につきまして、身元不明なのか、町内の方なのかという御質問でございますが、まずこちらにつきましては、町内の方となっております。法律で身元不明の場合、もしくは身寄りのない方が死亡した場合については、死亡地の自治体で火葬のほうを行うということになっておりますので、今回は町内の方で身寄りがない方という形になります。

こちらが1名でございます。何名かというところにつきましては1名。

この1名について火葬を行いまして、町の町営墓地のほうに預けているという形でございます。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 9番、浅川紀明委員。

○浅川紀明委員 2つ目の39ページの2番目の高齢者生活支援事業の関連でもう少し説明をお願いしたいんですけども、（1）のところに12節委託料というものが計上されています。これはそもそも38ページの4項のところに計上すべきものなんではないかなと、イオンへの委託料ですね。何で繰越しされたところに委託料が計上されているのか、ちょっと分からないので教えてください。

○委員長（伊藤 司君） 健康推進課長。

○健康推進課長（小原晶子君） お答えいたします。

まず、39ページ、こちらのほうの高齢者に対します給付費だったんですが、こちらは令和5年度実施分の令和6年度繰越しということで、こちらのほうは事業として完了しているんですが、38ページ、こちらの給付事業というのがまた令和6年度に実施しているものなので、こちらは令和6年度実施分、またそれを令和7年度に繰り越しているもので、それぞれちょっと事

業の年度が違いますので、こちらを分けて記載のほうをしております。

以上でございます。

○委員長（伊藤 司君） ほかに質疑ありませんか。7番、金萬文雄委員。

○金萬文雄委員 3点お願いいたします。

1点目は、72ページのシルバー人材センターの助成事業についてです。

登録者数が減になっております。令和5年度は増えているんですけども、令和6年度は減っている。ちょっと少しずつ増えていたかなとは思ったんですけども、令和6年度減っているので、その理由をお伺いしたいということが1点目。

2点目が、105ページの医療的ケア保育の支援事業なんですけれども、今年最初1名で開始したと思うんですけども、実施状況とかどうだったかなというふうに思いますので、それをお伺いしたい、その評価も含めてお伺いしたいと。

3点目ですけども、112ページの児童クラブのところですけども、一番下の（2）の児童クラブの運営状況のところ、定員に比べて大幅にオーバーしているのが三小なんです。年間通してオーバーしているので、ここに関してちょっと私も危惧して、夏とかちょっとお伺いしますと、夏とか外に出れないので、結構ぎゅうぎゅう詰めというか、大変だということは聞いたことがあります。

実際のところ、これ定点なのか平均かわからないんですけども、定点だと思うんですけども、実際のところ、通年通してこの利用状況のオーバーの状況というのをつかんでいるところをお伺いしたいということです。

以上、3点お願いいたします。

○委員長（伊藤 司君） 当局答弁願います。長生き支援係長。

○長生き支援係長（及川直利君） お答えいたします。

まず、72ページのシルバー人材センターの会員数の減った理由でございますが、令和5年度から令和6年度まで24名ほど減っております。

こちらは、新規加入者よりもいわゆるシルバーの高齢化といいますか、80代の方が体力的にもうできなくなったとか、ちょっと病気になったりとかで減ったという形になります。

以上になります。

○委員長（伊藤 司君） 2点目、菅谷台保育所長。

○菅谷台保育所長（澁谷英子君） それでは、2点目についてお答えさせていただきます。

医療的ケア児の受入れ状況についてというところなんですけれども、こちらのお子様は経管栄養なんですけど、昨年度については197日登園しております。経管栄養は1日に2回実施しております。そのほかに水分補給のところ、それから肢体不自由もありますので、そちらのケアなどを実施しております。看護師と保育士と各分担を取りながら、よりよい保育のほうを進めさせていただいております。

以上になります。

○委員長（伊藤 司君） 子ども企画係長。

○課長補佐兼子ども企画係長（成田奈穂美君） 3点目の児童クラブの件につきましてお答えいたします。

委員おっしゃるとおり、三小児童クラブにつきましては、年間を通して登録児童数が多い現状となっております。

それに伴いまして、町といたしましては、昨年から三小さんの御協力をいただきまして、プレハブ校舎のほうを2教室確保しておりまして、児童クラブはそちらのほうで運営を行っております。

今年度も引き続き、学校側の協力をいただきまして、継続的にそちらのプレハブ校舎のほう活用しながら運営を行っている現状となっております。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 7番、金萬文雄委員。

○金萬文雄委員 まず、1点目は状況分かりました。ちょっと私の想像というか、再就職も結構多いのかなというふうな、影響しているのかなとちょっと思ったものです。

それから、再質問ですけれども、登録者の方から仕事の依頼が減っているということを聞きましたが、現状はどうか。ちょっとシルバーセンターのホームページ見ますと、確かに令和5年度までのデータしかなかったんですけれども、令和4年度が961件の請負件数で、令和5年度が843件ということで、請負件数確かに減っているなというふうに思いますけれども、ここら辺の状況をつかんでいればお願いしたいというふうに思います。

それから、医療的ケア児なんですけれども、状況については分かりましたけれども、評価についてというか、受けている保護者さんとかというところはどうだったかなというのはお聞きしたかったんです。医療的ケア児と周りの普通のお子さんたちと、例えば一緒にやれる状況だったのかとか、そういうこともちょっとお聞きしたかったんですね。

そこはちょっと2回目ですけれども、お聞きしたかったということです。

3点目、3点目ですけれども、児童クラブのことですけれども、今後の三小、児童増えていると思うんですけれども、今後、たしか野中地区のかなりやっぱ小さい方が転居されてきているという状況もあって、今後の状況とか、今後増える見込みとかということで予測があればお伺いしたいということと、それに対してどういうふうにお考えなのかということをお伺いしたいというふうに思います。

○委員長（伊藤 司君） 長生き支援係長。

○長生き支援係長（及川直利君） まず、1点目のシルバー人材センターの仕事の現状ということでございますが、仕事のほうは令和5年度から令和6年度にかけて比較しますと、就労延べ人数的には、令和5年度の実績が1万4,932人に対しまして、令和6年度の実績は1万5,632人ということで増えております。

実際会員のほうは、全国的な傾向として新規の加入が少なくなっておりまして、一方でお辞めになっていく方が増えているという現状があります。このままだと会員のほうが年々減っていつてしまいますので、新規加入ですね、こちらのほうも周知していければなというふうに思っております。

以上でございます。

○委員長（伊藤 司君） 菅谷台保育所長。

○菅谷台保育所長（澁谷英子君） それでは、再質問にお答えいたします。

現状のところ、保護者様の状況ということなんですけれども、大体就労のお時間に合わせて9時10分ぐらいから4時半まで保育を行っております。

かかりつけ医の連携と、それから病院と、そして、こちらの園医のところと相談しながら保育のほうは進めております。

あわせてなんですけれども、ほかのお子さんとの接触ということで御心配いただいているんですが、国としてもインクルーシブ保育のほうを推進しておりますので、大人が思っている以上に子供たちはすごく心身ともにバリアフリーな状況なので、そのお子さんの発達に応じて入るクラスのほうを決めておりました。

今後につきましては、また県それから町の委託のところと相談しまして、よりよい発達に合わせた生活の部分、相談しながら進めていきたいと思っております。

以上になります。

○委員長（伊藤 司君） 子ども企画係長。

○課長補佐兼子ども企画係長（成田奈穂美君） 3点目につきましてお答えいたします。

三小児童クラブの現状といたしましては、今年度も登録人数のほうが非常に多い状況となっております。

今後についてなんですけれども、来年度、サテライトとして新たに開設できないかということで、今、内部のほうで調整のほうを行っております。場所の確保はもちろんなんですけれども、予算の部分も確保して、子供たちをより安全に預かりたいと考えておりますので、よろしくをお願いいたします。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 7番、金萬文雄委員。

○金萬文雄委員 3回目。

シルバー人材センターのほうは、件数増えているというお話だったんですけれども、高齢化に伴ってなかなか作業できる幅も狭まっているというのは聞いているので、例えばですね、リフノスとかの公共施設の活用とかは、指定管理者なんですけれども、そこからの委託というふうになると思うんですけれども、そこいら辺が町内の人に委託されているかちょっと分からないんですけれども、そういうところの活用とかということは考えられるのか。例えば外の除草とか、そういうことも考えられるかどうかというのをお聞きしたかったです。

あと、2点目の医療的ケア児の内容については何となく分かりました。ありがとうございます。

令和6年度、去年、決算のときに聞いたときには、申込みが3人ほどあって、2人辞退ということがあったんですけれども、令和6年度に関してはどうなのか。希望者の待機があるのかどうかも含めてお伺いしたいというふうに思います。

3点目については、増設検討しているということで、ぜひお願いしたいというふうに思いますので、そこら辺は御検討よろしくお願いいたします。

以上、2点だけお願いします。

○委員長（伊藤 司君） 長生き支援係長。

○長生き支援係長（及川直利君） お答えいたします。

リフノスなどの指定管理ということで、そういうところからの委託ということでございますが、シルバー人材センターとしても町の業務委託ですとか、あと一般の家庭からの業務委託と

か、様々なお仕事を請け負っているところでございますが、指定管理からということでございますけれども、そちらのほうですね、現実的にどういう状況になっているかなど、ちょっと確認して検討してみたいと思います。

○委員長（伊藤 司君） 保育係長。

○課長補佐兼保育係長（平塚慎也君） 2点目の医療的ケア児の令和6年度の申込み状況につきまして、現在、菅谷台保育所のほうに1人入っているんですけれども、それ以外で1件申込みがありまして、保護者の方と希望される施設のほうと調整をしていたんですけれども、途中で保護者の方が辞退するというので、御家庭でもう少しお子さんを見るということで話になりまして、結果的には追加では医療的ケア児のほうは入らない形で、今現在の1人という形になりました。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 3点目はよろしいですね。（「はい」の声あり）

ほかに質疑ありませんか。11番、小淵洋一郎委員。

○小淵洋一郎委員 私から3点質問いたします。

まず1点目、103ページ、3款2項5目保育所費というところの23番になるんですけれども、イオンゆめみらい保育利府委託事業398万8,460円とあるんですけれども、表中を見ると、在籍児童数、零歳、1歳、2歳で、年間通してゼロなんですね。これ利用実績がないというふうに私は捉えてしまったんですけれども、非常にデリケートな問題なんですけど、この現状について当局はどういうふうに考えているかというところをお聞きいたします。

2点目、111ページ、3款2項7目児童対策費10節需用費、子育て応援団6万7,618円というところで、子育て応援すこやか2024、令和6年10月19日から20日間、来場者1万7,557人と非常に多くの方が来られていて、これはとてもすばらしい取組だったと思うんですけれども、具体的にどのようなことをやられたのか御説明願いたいと思います。

3つ目、同じページになりますけれども、3款2項7目児童対策費7節、これ一昨日、赤ちゃんのハイハイレースを拝見いたしまして、とてもほほ笑ましく感じました。

それで、令和6年9月と令和7年1月の2回の実績を見ますと、参加人数85組、この町内外、把握されていれば、参加された方の町内外の説明をお願いいたします。

以上、3点です。

○委員長（伊藤 司君） 保育係長。

○課長補佐兼保育係長（平塚慎也君） それでは、1点目の103ページの23番4、ゆめみらい保育園利府の委託事業につきまして、ゼロ人という状況なんですけれども、こちらのほうがこの表の下部分が従業員枠ということで、イオンのほうでお仕事されている方の人数になっていて、上のゼロ歳児から2歳児につきましては地域枠ということで、一般の町民の方を受け入れる枠の部分でございます。

イオンのゆめみらい保育園の園長さんとも先日お話ししたんですけれども、なかなか保育士のほうが不足しているということもありまして、従業員枠のほかに地域枠というのも設けているんですけれども、なかなかそこに対して受入れというのが今は難しいということを知っていました。一般の地域枠のほうも含めてイオンの保育園というのは、365日土日も休みなく開園しているということもありまして、勤務条件が厳しいというところもあって、なかなか保育士の方が応募されないということを知っています。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 子ども企画係長。

○課長補佐兼子ども企画係長（成田奈穂美君） まず初めに、2点目、子育て応援団すこやか2024につきまして御説明いたします。

こちらのイベントなんですけれども、毎年グランディのほうを会場に開催されておりますイベントとなります。

主催につきましてはミヤギテレビさんが主催となっておりまして、そちらのほうに宮城県の子育て社会推進課のほう、あと地元の利府町、あと近隣でいいますと富谷市ということで、出展ブースのほうで参加をさせていただいております。

出展ブースの内容といたしましては、町の子育て施策のPRの場として活用しておりまして、また小さなお子さん連れでいらっしゃる方々が多いので、遊びの場の提供ということで手作りおもちゃなどを準備して、子供たちが少しでもリラックスして遊べるようにということで提供を行っております。なお、今年についても参加予定となっております。

次に3点目、ベビーファースト推進事業の赤ちゃんハイハイレースの参加者の内訳なんですけれども、まず、昨年9月16日、イオンさんのほうで開催されました赤ちゃんハイハイレースの参加者の内訳になります。全体で47組のうち、町内の方は28組、町外の方は19組となっております。

今年の1月18日、リフノスのほうで開催しましたレースのほうにおきましては、全体で38組

のうち、町内の方が25組、町外の方が13組となっております。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 11番、小渕洋一郎委員。

○小渕洋一郎委員 まず1点目のところなんですけれども、やはり職場に託児所があるということで、非常に働くお母様たちにとってはいいことなので、ここをもう少し枠を広げてもらうような努力して、町内で従業員でいる方のケアをしてもらえれば、ケアというか、面倒を見てもらえればと思います。

2点目については結構です。

3点目のところなんですけれども、年間通して85組になるんですけれども、6万円という報償費、これは協賛企業さんの景品なんかも含めてはないと思うんですけれども、参加費に充てられてるのかなと思うんです。そのところはどうなっているのでしょうか。

○委員長（伊藤 司君） 保育係長。

○課長補佐兼保育係長（平塚慎也君） それでは、イオンゆめみらい保育園なんですけれども、すみません、私の説明不足で。

下の従業員枠というのが、利府町内のお子様も含めた形の人数となっておりますので、上のゼロ歳から2歳のこちらの表の部分につきましては、本当にイオンで従業員として働いていない方も受け入れるという枠になってございます。

委員おっしゃるように、地域の方の枠につきましても今後施設のほうと相談しながら受入れ体制のほうを広げていっていただけるように努力してまいりたいと思います。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 子ども企画係長。

○課長補佐兼子ども企画係長（成田奈穂美君） お答えいたします。

赤ちゃんハイハイレースの記念品なんですけれども、こちらのほう6万円ということで支出のほう行っております。

こちら6万円の内訳なんですけれども、ハイハイレース2回開催しておりまして、それぞれ1位の方に提供している商品のほうの支出となっております。

なお、商品のほうにつきましては、利府町を皆さん知っていただきたいということも含めて地場産品の詰め合わせということで準備のほうをさせていただきました。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 11番、小渕洋一郎委員。

○小渕洋一郎委員 最後の質問、ハイハイレース、かわいいかわいい赤ちゃんを参加させているわけですから、参加賞というものももう少し限度額を上げて差し上げるように検討願えればと思いますが、そこら辺の見解をお願いいたします。

○委員長（伊藤 司君） 子ども企画係長。

○課長補佐兼子ども企画係長（成田奈穂美君） 委員おっしゃるとおり、来年の1月にまたリフノスのほうで開催いたしますので、御意見として頂戴したいと思います。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） ほかに質疑ありませんか。14番、羽川喜富委員。

○羽川喜富委員 2点だけ、説明だけお願いしたいと思うんですけれども、105ページの保育所等の性被害防止対策設備支援事業ですね、7万5,000円なんですけれども、この内容的なものはどういう形での防止なのかということと、あと108ページの出張子育て広場事業の中の出張子育て広場 i n モイク広場ですね、349人利用者あると思うんですけれども、この内容についてちょっと教えてください。

○委員長（伊藤 司君） 保育係長。

○課長補佐兼保育係長（平塚慎也君） それでは、105ページの29番、保育所等性被害防止対策設備支援事業なんですけれども、こちらの内容としましては、保育所などにおきましてパーテーションとか簡易扉、あと簡易個室などの設置により、子供のプライバシーの保護や保護者からの確認依頼などに応えるためのカメラによる支援などの記録を行う整備を導入する場合の補助となっておりまして、実際、令和6年度、こちらの実績としましては、各園に希望を募ったんですけれども、1つの園から、青山すぎのここども園さんのほうから希望をいただきまして、ガラスシートというのを設置しております。外からのぞき見を防止するための窓ガラスに貼り付けて使用するシートとなっております。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 子ども家庭係長。

○子ども家庭係長（庄司千春君） 108ページの出張子育て広場事業の利用実績のところにつきまして御説明いたします。

出張子育て広場につきましては、子育て中の保護者の孤独ですとか、あと不安感を緩和して、子供の健やかな育ちを支援することを目的にしまして、イオンモールの3階にありますモイク

ク広場で実施をしております。

子育て支援センター事業として令和5年度まで委託しておりましたが、令和6年度から町直営で実施しておりますので、こちらのほうに実績を載せさせていただいておりまして、349人という利用者につきましては、親子を含めての延べの来館者といいますか、利用者になっておりまして、親子遊びなど手遊びですとか、あと絵本の読み聞かせなどをしていました。

以上でございます。

○委員長（伊藤 司君） 14番、羽川喜富委員。

○羽川喜富委員 保育所の内容はよく分かります。パーテーションとかプライバシーの内容とか、この内容で青山すぎのこのほうから対応させていただきたいということの要望で、ほかのところの内容として、ほかの園で防止対策関連という形の要望がないということは、特別問題的なものがないというふうな解釈でよろしいですか。

あと、モクイクに関してはよく分かりましたので、ぜひ引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

○委員長（伊藤 司君） 保育係長。

○課長補佐兼保育係長（平塚慎也君） 1点目の保育所等の性被害防止対策設備なんですけれども、こちらのほう希望される園は青山すぎのこども園さんだけだったんですけれども、各ほかの園のほうに照会はして回答は来なかったんですけれども、各施設のほうでこの補助金のほう対応しなくても今の現状の施設でそういったプライバシーとかは守られているということで要望がなかったものだと捉えております。

以上です。（「分かりました」の声あり）

○委員長（伊藤 司君） 6番、鈴木晴子委員。

○鈴木晴子委員 関連でお願いします。

今の保育所の性被害のところなんですけれども、町の補助額は金額に対してどの程度の割合だったのかというところだけお願いいたします。

○委員長（伊藤 司君） 保育係長。

○課長補佐兼保育係長（平塚慎也君） こちらの補助額のほうは、町のほうが3分の1ということで、残りは国のほうからの補助金で受けております。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） ほかに質疑ありませんか。4番、高木綾子委員。

○高木綾子委員 では、私のほうから。

107ページ、2の子育て支援事業運営業務事業について、3点伺います。

ファミリーサポートセンター事業の実績ですが、令和5年度から令和6年度、大体数は同じだと思いますが、やはり利用会員と協力会員の差がかなり大きいと思います。こちらの募集状況はどのようになっているか教えてください。

2番目は、③の活動内容ですが、令和5年度と令和6年度を比較しますと、利用者の活動内容が何か逆転しているような数に見えますが、その辺の利用者のニーズの変化は感じられるかどうかを伺います。

3点目は、④のその他子育て支援事業実績ですが、ボランティア養成講座が令和5年度が3人、令和6年度がゼロになっています。こちら辺の募集状況とどういった見解かを教えてください。お願いします。

○委員長（伊藤 司君） 子ども家庭係長。

○子ども家庭係長（庄司千春君） お答えいたします。

子育て支援事業運営業務につきまして、まずファミリーサポートセンターの募集ですとか周知の状況になりますけれども、まず毎年になりますが、年度初めに各施設のほうにリーフレットを配布しております。児童関係の施設、児童クラブですとか、保育所、幼稚園、また病院さんですとか、商業施設としてヨークベニマルさんですとか、生協さんですとか、コンビニさんなどにもいろんなところにリーフレットを配布しております。

それから、育児相談があった場合に、相談があった方に対してアドバイスとして、こちらのファミリーサポートセンター事業の利用のほうなども御紹介をさせていただいております。

町の広報紙、それから社協だよりのほうにも年間を通して数回掲載をしております。

それから、令和6年度につきましては、各子育て広場のスタッフの皆様、それから保健協力員さんとか、児童民生員さんですとか、子育てボランティアの方に対してもファミサポの説明をしているところでございます。

小学校にもポスターを配布しましたし、町内会を通じて回覧版でお知らせなどもしているところでございます。

2点目の活動内容につきましては、令和5年度、保育所、幼稚園や児童クラブ等への送迎及び帰宅後の預かりというところが令和5年度が41名、令和6年度につきましては29名に減っておりますが、こちらは小学校に上がった方、もしくは中学校に上がった方などで利用しなくて

もよくなった方がいらっしゃいましたので、こちらの逆転現象といいますか、数が減っているように見えるところがございます。

3点目のボランティア養成講座の実施につきまして、令和5年度3名受講された方がいらっしゃいましたが、令和6年度につきましては、募集をしたんですけれども、誰も集まりませんでして、ゼロ人という結果になっております。

こちらにつきましては、広報紙ですとか、あとホームページ、直接チラシを配ったり、直接お声掛けをしたりですとか、いろいろやったんですけれども、結局、結果的にはどなたもいらっしゃらなかったのがゼロ人という結果になっております。

こちらにつきましては、どのようにしたら人が集まるのかということで、委託先のところと一緒に考えまして、子育てボランティアさんが直接やっているところの写真をホームページに掲載などをしまして、どのような活動をしているのかというところを皆さんに分かるように工夫をしたところがございます。

以上となります。

○委員長（伊藤 司君） ほかに。14番、羽川喜富委員。

○羽川喜富委員 ファミリーサポートセンターですね、いろいろ視察もさせていただいて、いろいろと体験して、とても市町村も力を入れて状況を整えながら頑張っていると思うんですけれども、利府町において利用者会員と協力会員の中でいろいろ他の市町村も踏まえてトラブ的なものという形ものを挙げられているところではありますが、利府町においてはトラブル状況は特別なかったのか、またそれに近い内容が挙げられていたら教えてください。

○委員長（伊藤 司君） 子ども家庭係長。

○子ども家庭係長（庄司千春君） お答え申し上げます。

ファミサポの利用会員さんと協力会員さんの間でのトラブルにつきましては、町のほうでは聞いておりませんので、恐らくないものと思われま。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） ほかに質問ありませんね。

それでは暫時休憩します。再開は午前11時とします。

午前10時44分 休 憩

午前10時55分 再 開

○委員長（伊藤 司君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

質疑ありませんか。12番、高久時男委員。

○高久時男委員 それでは、3点ほど。

70ページ、3款1項2目の高齢者福祉費の中の2の敬老祝い事業、12節記念品なんですけれども、タオルの単価を教えてくださいなと思っております。去年、タオル76円と聞いてびっくりしたんですよ。安いな。あの品質76円は立派なので。

それと、78ページ、3款1項3目の障害者福祉費の10節かな、ガソリンの助成なんですけれども、人数がさほど令和5年と変わっていないのに金額が約1.5倍ぐらい上がっております。これに関して支給基準が変わったのか、単価はそんなに変わっていないと思うので、あと支給制限とかそういったものがあるのか、その辺だけお願いします。

あと、94ページ、3款2項5目保育所費で、2の教育保育施設第三子以降給食助成なんですけれども、これも人数そんなに変わっていないのに約100万円ちょっと増えております。食材費の高騰とかその辺あると思うので、その辺の説明願います。

○委員長（伊藤 司君） 長生き支援係長。

○長生き支援係長（及川直利君） まず、1点目の敬老記念品の単価についてお答えいたします。

敬老記念品の単価につきましては、記念品と、あと敬老者に配布するまで箱詰めまで一連を業務委託としてお願いしているものですから、単純に単価というのは出すのは難しいんですけれども、250円程度となると思います。

以上でございます。

○委員長（伊藤 司君） 障がい福祉係長。

○課長補佐兼障がい福祉係長（千葉暁子君） 2点目にお答えいたします。

障害者タクシー・ガソリン費助成事業の金額が増額になった理由でございますが、令和5年度までは1か月2,000円、年間2万4,000円の助成でございましたが、令和6年度からは、物価高騰やタクシーの初乗り料金の値上がりを踏まえ、1か月3,000円、年間3万6,000円の助成としたことによるものでございます。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 保育係長。

○課長補佐兼保育係長（平塚慎也君） それでは、3点目の第三子以降の給食助成事業につきましてお答えいたします。

こちらの補助金の補助の基準なんですけれども、一月6,500円を上限に給食費に係る実費を補助しております。

そのため、各年度の施設の人数の内訳とかによって金額のほうは差が出てくるんですけども、各施設の、委員おっしゃるとおり、給食費のほうの物価高騰により食材費も上がっておりますので、そちらのほうで増えたものと捉えております。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 12番、高久時男委員。

○高久時男委員 敬老の、そんなに難しく考えないで、タオルの仕入れ単価だけ教えてもらえばいいです。

それと、ガソリンですけれども、要は何リットルまでとかそういう基準じゃなくて、1か月タクシーとガソリン代含めて、両方合わせて1か月の支給額が2,000円だったのが3,000円になったということですね。

○委員長（伊藤 司君） 長生き支援係長。

○長生き支援係長（及川直利君） 仕入れ単価ということでございますが、こちらは業務委託という形をお願いしておりますので、購入のほうも相手方、業者さんのほうで仕入れておりますので、ちょっとこちらのほうでは把握しておりません。

以上でございます。

○委員長（伊藤 司君） 障がい福祉係長。

○課長補佐兼障がい福祉係長（千葉暁子君） お答えいたします。

対象者には変わりはないんですけれども、先ほど委員おっしゃったように、タクシー・ガソリンどちらでもいいのではなくて、最初の段階でタクシーかガソリンかどちらかを片方選んでいただいて、その中で3万6,000円という上限は同じく使っていただくという形になっております。

以上です。（「よろしいです」の声あり）

○委員長（伊藤 司君） よろしいですか。（「はい」の声あり）

ほかに質疑ありませんか。6番、鈴木晴子委員。

○鈴木晴子委員 それでは、2点お伺いいたします。

共通していることではあるんですが、112ページの3款2項8目児童福祉施設費なんです、1の児童クラブのところでございます。

最初に、10節のほうの修繕費、児童クラブエアコン修繕ということで計上されております。それから、12節三小児童クラブ分解清掃業務というふうになっておりますが、まずは修繕のほうどちらのところだったのかというところ、それから、この三小だけが分解清掃ということになっておりますが、ほかの児童クラブはどのようにになっているのかというふうな部分。

それから2点目といたしまして、各児童クラブのエアコンの状況なんですけれども、国から児童クラブにおける設定温度、設定ではないですね、実際の温度が何度というふうに指導されているのかというふうな部分。たしか28度だったと思ったんですが、そのところ、どのように町のほうで把握されているのかお伺いいたします。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 子ども企画係長。

○課長補佐兼子ども企画係長（成田奈穂美君） まず、1点目の修繕についてお答えいたします。

修繕をした箇所につきましては、二小児童クラブのエアコンというふうになっております。

2点目のエアコンの設定温度なんですけれども、各クラブとも28度設定ではあるんですけれども、やはり夏休み期間中となりますと、室内に、今年は特に猛暑ということもありまして室内での活動が増えた現状でありました。そのため、28度設定ではやはりかなり室内が暑いということで、設定温度よりは下に下げて対応した状況ではあったんですけれども、なかなかエアコンのほうもフル稼働はしたんですが、温度が下がらないという状況ではありました。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 6番、鈴木晴子委員。

○鈴木晴子委員 分解清掃のほうなんです、三小だけということで、ほかの児童クラブのほうは点検されて清掃とか必要性がなかったのか、その辺をお伺いいたします。

それから、28度でも今年は本当に高かったというところで、昨年も同様だったと思うんですけれども、それに関して町でどのように指導されているのかというところで、エアコンの設定は幾らでも下げられるというか、その機械の最低の温度までできると思うんですが、室内の温度がどの程度になっているかという把握をされているのかというところを伺っておりましたので、お願いいたします。

○委員長（伊藤 司君） 子ども企画係長。

○課長補佐兼子ども企画係長（成田奈穂美君） お答えいたします。

まずエアコンの分解作業の部分なんですけれども、こちらにつきましては、町のほうでは二

小児童クラブ、三小児童クラブのほう、昨年は三小児童クラブのほう行ったんですけれども、今年度につきましては二小ということで、1年置きに分解のほうを行って清掃を行っている現状となっております。

また、各児童クラブの活動場所といたしまして、学校の体育館の2階ミーティングルームを借用していたりとか、あとは建物の中での活動もちろんなんですけれども、気温がなかなか下がらないという声は各クラブのほうからは届いておりました。

こちらといたしましては、サテライトとして学校のプレハブ校舎を貸していただいて、暑いときにはそちらのほうに一時避難をして、あと子供たちが本館のほうでの活動並びにプレハブ校舎内のほうで活動ということで巡回させるようにということでは指導しておりました。学校のプレハブ校舎を借りる際には、プレハブ校舎と本校舎のほうですね、そちらにつきましては、各学校の校長先生、教頭先生の協力をいただきながら、各自調整を行っていた現状です。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 6番、鈴木晴子委員。

○鈴木晴子委員 分解清掃のほうは、児童クラブごと1年置きにというふうな考え方でやっているということですが、6か所ある中で6年かかってしまうというところもあります。そのエアコンが今どのような状況なのかという調査はやはりしていただいて、子供たちの安全のためにその温度がしっかりとした機能として動いているエアコンなのかというところの点検を、ぜひお願いしたいという考えがあります。

それからもう1点といたしまして、やはりその現状でサテライトでしっかりと対応しているというふうな現状があるということは分かりました。ただですね、今言ったように、点検がなされているかどうかあれですけれども、実際いらっしゃる皆さんが、私も行ったとき物すごく暑かったので、暑い現状がある中で、やはりこのエアコンで十分なのか、また増設が必要なのではないかというふうにも思っているところでもあります。子供たちの安心・安全というふうな視点で、令和6年度中、そのような考えで検討がなされたのか、令和7年度も実際、私、令和7年になってから行ったことがあるんですが暑かったので、令和6年度中の検討状況はどうで、どうして令和7年度に増設とかそういうふうな考えで動かなかったのかというふうな部分をお伺いいたします。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 子ども企画係長。

○課長補佐兼子ども企画係長（成田奈穂美君） 今委員おっしゃったとおり、やはりエアコンにつきましては、各クラブ、子供たちが安全に安心して活動できる場として、きちんと点検のほう並びに清掃のほうは行っている状況ではありました。猛暑が続いたということもありまして、またプールとか外での活動がなかなかできないということもあり、子供たちもパワーを発散させる場所がちょっと限られてしまったという状況ではありました。

本年度なんですけれども、実は学校のほうのエアコンの状況がちょっと老朽化しているということで相談のほうはありました。業者のほうとも立会いをした上でどうしようかということで、課内のほう、また現場のほうとも調整はしたところではあったんですけれども、何とか大型の扇風機だったりとかで対応はできるんじゃないかということで、各クラブのほうでは対応していた状況でした。

ただ、来年度も猛暑が恐らく続くかと思いますので、それに向けて、町としてはきちんと予算を確保して対応できるようにしていきたいと考えております。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） ほかに質疑ありませんか。1番、郷右近佑悟委員。

○郷右近佑悟委員 私からは1点で、135ページの4款1項5目の7番目の妊婦歯科健康診査事業についてなんですけれども、こちら母子手帳を持った妊婦さんの方が対象になるかと思うんですけれども、全体的に令和6年度で対象となった方の人数というのを教えていただければと思います。

○委員長（伊藤 司君） 子ども家庭係長。

○子ども家庭係長（庄司千春君） お答えいたします。

妊婦歯科健診の対象者の妊婦さんの数につきましては、すみません、失礼いたしました。

対象者の人数につきましては363人でございます。

令和5年度中に母子手帳を発行された方で、令和6年4月1日時点でまだ妊娠中であつた方、それから令和6年度中に母子手帳を交付した方ということで合わせて363名となっております。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 1番、郷右近佑悟委員。

○郷右近佑悟委員 では、歯科健診なんですけれども、いろいろ妊婦さん、歯医者とかなかなか行くきっかけとかなくて、そういうこともあるので非常にいいのかなと思うんですけれども、実際この制度をつくるとなったときの見込みに対して、今回、令和6年度111名の方が受診した

ということなんですけれども、それは見込みに対しての実際に受診した方の数の評価とかそういったところを教えていただければと思います。

○委員長（伊藤 司君） 子ども家庭係長。

○子ども家庭係長（庄司千春君） お答えいたします。

利府町では令和6年度からの新規事業なんですけれども、ほかの自治体のほうで既にこの妊婦歯科健診を行っているところがありまして、そちらのほかの自治体さんの情報から、大体受診率5割程度ということ把握しておりましたので、予定では5割を目安に見込んでおりましたが、令和6年度の実際に受診された方は3割にとどまっております。なので、妊婦さんにとって歯周病ですとか、それから虫歯の治療ですとかされていない方、多くいらっしゃるということが分かりましたので、とても重要な健診だと思っておりますので、多くの皆様に受けていただけるように、これから周知のほうを徹底してまいりたいと思っております。

○委員長（伊藤 司君） ほかに質疑ありませんか。9番、浅川紀明委員。

○浅川紀明委員 一巡したので、簡潔に2つお願いします。

106ページ、第1項の地域子育て支援拠点事業についてなんですけれども、（1）のところで助成金という表現になっています。ちなみに、昨年度は業務委託となっており、その金額が1,200万円余り。今回、助成金ということで結構な金額が積まれているんですが、この違いについて教えてください。積まれているというか、決算となっているんですけれども。

2つ目は、110ページと111ページ、児童対策費についてなんですが、昨年度、令和6年度決算書にはない新生児誕生祝い事業がありました。これがなくなったのはどのような理由からでしょうか。

○委員長（伊藤 司君） 子ども家庭係長。

○子ども家庭係長（庄司千春君） お答え申し上げます。

まず1点目につきまして、令和5年度の説明書のほうでは子育て支援事業運営業務委託としておりましたが、こちらの業務につきましては、記載のページが変わっておりまして、107ページのほうに記載を移しておりますので、御確認いただきたいと思います。

以上でございます。

○委員長（伊藤 司君） 子ども企画係長。

○課長補佐兼子ども企画係長（成田奈穂美君） 2点目についてお答えいたします。

委員おっしゃった事業につきましては、令和5年度は行っていたんですけれども、こちら補

助金のほうを活用して行っておりまして、令和6年度は事業のほうは廃止ということですのでお
ります。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） ほかに質疑ありませんか。7番、金萬文雄委員。

○金萬文雄委員 一巡したので、1点だけ。

128ページの（2）のところに下のほうですね、健康診査事業の実施状況のところ、基本健康
診査40歳以上の生活保護受給者でほかに受診していない者というところに表があるんですけども、
受診率が令和5年が15.6%、令和6年が10.3%、一般の受診率に比べてかなり低いん
ですけども、ここの状況、低い理由というのを伺いたいというふうに思います。

○委員長（伊藤 司君） 当局答弁願います。健康推進課長。

○健康推進課長（小原晶子君） お答えいたします。

こちらの基本健康診査、40歳以上の生活保護の受給者の皆さんには、申込み状況にかかわら
ず、こちらのほうから受診案内と受診票というのを対象者の方全員にお送りしているんですが、
ちょっと令和6年度につきましては、なかなか受けてくださる方が少なかったというところで、
すみません、ちょっと事情のほうは把握は、すみません、正直なところできてはいないんです
が、ただ年に1回のやはり大切な健診の機会だと思っておりますので、今後も対象者の方には
受けていただくように受診票のほうを全員の方にお送りしたいと思っております。

以上でございます。

○委員長（伊藤 司君） 7番、金萬文雄委員。

○金萬文雄委員 例えば、会社のほうで働いている方が会社のほうでやっているとか、あとはち
よっと仕事を休めない状況とかあるのかなとちょっと想像はするんですけども、そこら辺つ
かんではないですか。確かに仕事している職場でやっているところに乗かってこないかな
とは思うんですけども、そこら辺、情報ないでしょうか。

○委員長（伊藤 司君） 健康推進課長。

○健康推進課長（小原晶子君） お答えいたします。

こちらのまず基本健康診査、こちらは対象の方というのは40歳以上の生活保護受給者の方にな
ります。また、委員おっしゃっている仕事とかで受けられない方、そういった方もいらっし
やるのかなとは思いますが、ただこちらにつきましては、平日だけではなく土曜日とか日曜
日、また平日夜間の健診、また健診期間中というのは6月中旬から7月中旬にも実施している

んですが、その中で受けられなかった方たちに、また8月に予備日ということで3日間設けておりますので、そういった中でできるだけ受けていただけるように、体制というのは今後もつくっていきたいと思っております。

以上でございます。

○委員長（伊藤 司君） ほかに質疑ありませんか。14番、羽川喜富委員。

○羽川喜富委員 1点だけお願いします。

109ページの7のDV防止予防啓発事業ですけれども、9万1,000円ですか、計上されていますが、これ配布状況とどういう形でこれを生かしているのか、その件をちょっと教えてください。

○委員長（伊藤 司君） 子ども家庭係長。

○子ども家庭係長（庄司千春君） お答え申し上げます。

こちらのDV防止啓発リーフレットにつきましては、配偶者からの防止の抑止のためということで、小さいときからDVに関する情報を得ておくことが大切だと考えておりまして、小学校の4年生と中学校2年生、それから18歳の方、二十歳を祝う会の4回ですね、こちらの対象者の方にリーフレットを配布しているものでございます。

以上となります。

○委員長（伊藤 司君） 14番、羽川喜富委員。

○羽川喜富委員 その内容でよく分かりました。とても大切なことなので対応していただければと思うんですけれども、特別この内容で問題点とか何かは起きているわけではないですね。

○委員長（伊藤 司君） 子ども家庭係長。

○子ども家庭係長（庄司千春君） お答え申し上げます。

配布している対象者につきましては、特に問題が起きているということは町のほうでは把握しておりませんが、DVに関する相談は令和5年度から令和6年度にかけまして少し町のほうで受けている相談は増加傾向にあります。

以上でございます。

○委員長（伊藤 司君） ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（伊藤 司君） 質疑がありませんので、以上で保健福祉部の決算審査を終わります。

御苦労さまでした。当局は退席願います。

ここで暫時休憩します。再開は11時30分とします。

午前11時21分 休憩

午前11時28分 再開

○委員長（伊藤 司君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

審査日程表により、**町民生活部の決算審査**を始めます。

町民生活部長より所管事項の内容の説明をお願いします。町民生活部長。

○町民生活部長（堀越伸二君） 委員の皆様、お疲れさまでございます。

それでは、町民生活部所管の令和6年度決算の概要について御説明申し上げます。

町民生活部は、町民課、税務課、生活環境課を所管しております。それぞれの課の決算について、一般会計、特別会計の順に御説明を申し上げます。

歳入は歳入歳出決算書で、歳出は主要な施策の成果に関する説明書で御説明いたします。

初めに、一般会計の歳入について御説明申し上げます。

歳入歳出決算書の20、21ページを御覧ください。

1 款町税の調定額につきましては、前年度と比較し1億262万3,414円減の52億851万7,260円で、収入済額51億262万9,578円、収納率はほぼ前年並みの98%となっております。

1 項町民税1 目個人分の調定額につきましては、国の物価高騰対策として個人住民税の定額減税が実施されたことにより、前年度と比較し1億3,599万360円減の19億161万3,794円で、収入済額は18億4,170万823円、収納率は96.8%となっております。

2 目法人分の調定額につきましては、好調な企業業績により、前年度と比較し1,759万8,500円増の2億5,480万6,000円で、収入済額2億5,341万9,600円で、収納率99.5%となっております。

次に、2 項固定資産税の調定額につきましては、前年度とほぼ同額の26億5,733万7,835円で、収入済額26億1,557万124円、収納率98.4%となっております。

次に、3 項軽自動車税の調定額につきましては、総登録台数は前年度とほぼ同数ではございますが、新税率車両の登録台数の増加により、前年度と比較し389万9,320円増の1億1,369万560円で、収入済額1億1,086万9,960円で、収納率97.5%となっております。

次に、4 項市町村たばこ税につきましては、販売本数の増加により、前年度と比較し913万4,880円増の2億7,775万8,871円となっております。

次に、5項入湯税につきましては、対象施設であるホテルルートイン利府が令和6年7月に開業したことにより、前年度と比較し313万7,550円増の331万200円となっております。

28、29ページを御覧ください。

16款1項1目4節町民バス使用料につきましては、前年度と比較し23万4,353円増の667万5,065円で、増額の主な理由といたしましては、新型コロナウイルス感染症による行動制限解除等により利用者が徐々に増加したことによるものと推測されます。

同じく2項1目総務手数料につきましては、税務課及び町民課における諸証明書の発行手数料で、令和6年3月から戸籍謄本の広域交付が実施されたことに伴い窓口での発行件数が増加したことにより、前年度と比較し78万2,150円増の1,184万7,500円となっており、同じく2目衛生手数料につきましては、狂犬病予防注射済証や一般廃棄物処理手数料などで、主に一般廃棄物処理収集許可業者が収集している営業ごみや宮城東部衛生処理組合に搬入するごみの量が420トン増えたことにより、前年度と比較し465万1,000円増の5,366万6,590円となっております。

30ページ、31ページを御覧ください。

17款1項1目2節保険基盤安定負担金につきましては、国民健康保険の保険者支援分として国から交付されるもので、3,165万5,830円となっております。

同じく2項1目2節社会保障税番号制度システム整備費補助金のうち、1,331万円が町民課所管となっており、戸籍の振り仮名表記に伴うシステム改修等の費用に対する補助金でございます。

同じく4節個人番号関連事務費等補助金につきましては、マイナンバーカードの交付に要した経費に対し国から交付されるもので、1,299万6,000円となっております。

同じく6節物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金のうち、190万円が生活環境課所管分で、地域交通事業者支援事業として町内を運行するタクシー事業者に対し支援金を交付しております。

同じく7節地域公共交通（維持）改善事業費補助金につきましては、2,878万3,716円となっており、利府町版m o b i 実証運行事業に対する補助金でございます。

32、33ページを御覧ください。

同じく3項2目1節拠出年金事務費等委託金につきましては、国民年金事務に対する委託金で、681万2,550円となっております。

34、35ページを御覧ください。

18款1項2目2節保険基盤安定負担金につきましては、国民健康保険加入者の低所得者に対する保険税軽減の県負担金として、前年度と比較し2,377万2,080円増の1億5,194万4,882円となっております。

同じく2項1目3節バス運行維持対策費補助金につきましては、前年度とほぼ同額の45万5,000円となっております。

同じく7節地域公共交通利用活用促進事業費補助金の250万円につきましては、県の地域公共交通の利用促進に資する事業として、新たに利府町版m o b i 実証運行事業に対して交付されたものでございます。

36、37ページを御覧ください。

同じく3目4節みやぎ環境交付金につきましては、エアコンなどの省エネ家電製品の買替促進や太陽光発電設備などの設置に関するゼロカーボンチャレンジ事業に対する交付金で、前年度とほぼ同額の563万円となっております。

38、39ページを御覧ください。

同じく3項1目4節町税費委託金につきましては、県民税の賦課及び徴収の実績により県から交付される委託金で、前年度とほぼ同額の5,856万5,478円となっております。

44、45ページを御覧ください。

23款4項3目3節健康診査事業委託金につきましては、後期高齢者医療保険に加入している被保険者の健康診査事業に対して宮城県後期高齢者医療広域連合から交付される委託金で、1,730万9,342円となっております。

同じく7節雑入のうち、51万6,000円が町民バスの広告料となっております。

同じく8節コミュニティ事業助成金は、町内会のコミュニティ活動に必要な設備等の整備に対する助成金で、2町内会分500万円となっております。

同じく10節二酸化炭素排出抑制対策事業費補助金につきましては、公共施設への太陽光発電設備の最適な導入規模等に関する調査に対し、環境省執行団体から交付される間接補助金で、735万円となっております。

次に、歳出について御説明いたします。

主要な施策の成果に関する説明書の31ページを御覧願います。

2款1項7目自治振興費の決算額につきましては、前年度と比較し239万9,000円減の8,880万1,000円で、主な事業実績につきましては、行政区長の報償費及び地域活動事業総合交付金、

職員人件費となっております。

33ページを御覧ください。

2款1項8目コミュニティセンター管理費の決算額につきましては、前年度と比較し100万8,000円減の554万5,000円となっております。減額の主な理由といたしましては、令和5年度に実施したコミュニティセンター和室の畳交換工事等が完了したことによるものです。

37ページを御覧ください。

2款1項11目令和6年度物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金事業費のうち、1の地域交通事業者支援事業の190万円が生活環境課所管の事業となっており、燃料価格高騰対策として町内を運行するタクシー事業者に対して支援金を交付したものでございます。

40ページを御覧ください。

2款2項1目税務総務費につきましては、町税等の課税に要した経費で、決算額につきましては前年度とほぼ同額の1億3,575万円となっております。

43ページを御覧ください。

2款2項2目徴収費につきましては、町税等の徴収に要した経費で、決算額につきましては前年度と比較し522万9,000円増の1,887万4,000円となっております。増額の主な理由といたしましては、44ページ、3のコンビニ収納事業において、収納代行手数料の改定により12節委託料が増額となったものであります。

5の収納状況等現年度分の収納額につきましては、前年度と比較し4,433万1,283円増の64億7,087万1,220円で、収納率は前年度より0.2ポイント減の98.8%となっております。

滞納繰越分の収納額につきましては、前年度と比較し746万2,681円増の5,485万2,277円、収納率は前年度より3.1ポイント増の26.5%となっております。

不納欠損の状況につきましては、長引く物価高騰等の影響もあり、破産した法人、生活困窮者、所在不明者等に関する滞納分として、前年度より25万2,415円増の1,165万8,516円を不納欠損しております。

45ページを御覧ください。

2款3項1目戸籍住民基本台帳費につきましては、戸籍法、住民基本台帳法の規定による事務の執行及びマイナンバーカードの交付に要した経費で、決算額につきましては前年度と比較し418万6,000円増の1億686万4,000円となっております。

58ページを御覧ください。

2款6項3目総合交通対策費の決算額につきましては、前年度と比較し3,705万7,000円増の1億8,058万8,000円で、増額の主な理由といたしましては、利府町版m o b i 実証運行事業を通年で実施したことによるものでございます。

59ページを御覧ください。

2の町民バス運行事業の（2）町民バスの利用状況につきましては、3路線の合計延べ利用者数は、前年度と比較し4,519人増加しております。

60ページを御覧ください。

4のシルバーパス事業につきましては、（2）②の民間バスチケットサービス事業の申請者数は、前年度と比較し72人増の1,219人となっております。

79ページを御覧ください。

3款1項4目国民年金事務費の決算額は、人事異動による職員人件費の増加により、前年度と比較し456万4,000円増の1,798万8,000円となっております。

82ページを御覧ください。

3款1項6目国民健康保険事業費の決算額につきましては、低所得者の国民健康保険税軽減による保険基盤安定繰出金の増加により、前年度と比較し3,015万4,000円増の2億2,367万6,000円となっております。

84ページを御覧ください。

3款1項8目後期高齢者医療事業費の決算額につきましては、加入者の増加に伴った医療費負担等の増加により、前年度と比較し2,626万5,000円増の3億7,418万6,000円となっております。

87ページを御覧ください。

3款1項9目物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金給付事業費のうち、6の重点支援地方創生臨時交付金支給事業3億357万7,313円につきましては、国の物価高騰対策として実施された定額減税当初補足給付金の支給によるものでございます。

139ページを御覧ください。

4款1項7目環境衛生費の決算額につきましては、省エネ家電製品等の買替促進などに関するゼロカーボンチャレンジ事業や、二酸化炭素排出抑制対策事業を行ったことにより、前年度と比較し1,041万9,000円増の5,333万4,000円となっております。

141ページを御覧ください。

4款1項8目公害対策費の決算額につきましては115万5,000円で、仙台平野地域における地盤沈下の面的な広がり把握するを目的として3年ごとに国土地理院、宮城県、利府町、ほか5市で連携して実施している仙台平野精密水準測量調査を行ったことによるものです。

145ページを御覧ください。

4款2項1目清掃総務費の決算額につきましては、一般廃棄物収集許可業者が収集する営業ごみや、町民が処理場へ搬入する粗大ごみ等の量が増えたことにより全体の処分量が増加し、宮城東部衛生処理組合負担金を含む一般廃棄物処理事業費が増加したことにより、前年度と比較し3,923万7,000円増の3億6,781万8,000円となっております。

147ページを御覧ください。

4款2項2目塵芥処理費の決算額につきましては、塵芥収集業務委託において運転手を含む作業員等の労務単価等が増加したことにより、前年度と比較し1,596万6,000円増の1億3,277万9,000円となっております。

以上が、町民生活部所管の一般会計分の決算の概要となります。

続きまして、特別会計の決算状況について御説明いたします。

歳入歳出決算書の124、125ページを御覧ください。

初めに、国民健康保険特別会計の歳入の主なものについて御説明いたします。

1款国民健康保険税の調定額につきましては、前年度と比較し8,817万3,846円増の7億8,721万7,022円で、収入済額6億7,558万5,166円、収納率は前年度より0.8ポイント増の85.8%、不納欠損額は494万1,730円となっております。

4款県支出金は、保険給付費に対して交付される普通交付金が減少したことに伴い、前年度と比較し1億8,461万3,165円減の22億4,907万3,084円となっております。

126、127ページを御覧ください。

6款繰入金につきましては、保険基盤安定繰入金のほか、職員人件費などの一般会計繰入金や財源調整の財政調整基金繰入金などで、前年度と比較し521万9,735円増の2億5,018万9,055円となっております。

7款繰越金につきましては、前年度と比較し263万7,698円増の860万6,941円となっております。

次に、後期高齢者医療特別会計の歳入について御説明いたします。

170、171ページを御覧ください。

1 款後期高齢者医療保険料の調定額につきましては、前年度と比較し5,754万9,540円増の3億8,514万7,141円で、収入済額は3億7,983万6,492円、収納率は前年度と同率で98.6%、不納欠損額は79万3,000円となっております。

3 款繰入金につきましては、低所得者の保険料軽減のため一般会計から繰り入れた保険基盤安定繰入金の増加により、前年度と比較し824万1,352円増の6,965万540円となっております。

次に、町営墓地特別会計の歳入の主なものについて御説明いたします。

180、181ページを御覧ください。

1 款1 項1 目1 節墓地等使用料につきましては、594万9,900円増の744万50円で、増額の主な理由といたしましては、墓地返還に伴う8区画の販売及び昨年度10基50戸を増設した集合墓地納骨壇のうち、13戸を販売したことによるものです。

2 項1 目1 節墓地管理手数料につきましては、前年度と比較し86万2,000円増の483万4,500円となっております。

3 款1 項1 目1 節町営霊園等管理運営基金繰入金251万9,000円につきましては、地方債の元金償還のため基金から繰り入れたものでございます。

次に、歳出について御説明いたします。

主要な施策の成果に関する説明書238ページを御覧ください。

初めに、国民健康保険特別会計について御説明いたします。

1 款総務費の決算額につきましては、マイナンバーカードと保険証の一体化に向けたシステム改修業務委託等により、前年度と比較し533万7,000円増の3,530万7,000円となっております。

239ページを御覧ください。

5 の国民健康保険加入の状況につきましては、後期高齢者医療保険制度への移行等に伴い、加入世帯数、加入者数とも前年度より減少したことにより、3,753世帯、加入者数は5,821人となっております。

240ページを御覧ください。

2 款保険給付費の決算額につきましては、被保険者数の減少に伴う療養給付費等の件数の減により、前年度と比較し1億7,777万6,000円減の21億9,980万4,000円となっております。

3 款国民健康保険事業費納付金の決算額につきましては、被保険者の所得水準や医療費の高度化により、1人当たりの医療費の増により、前年度と比較し907万2,000円増の8億6,256万7,000円となっております。

241ページを御覧ください。

4款保健事業費の決算額につきましては、前年度と比較し81万7,000円減の4,194万4,000円となっております。

243ページを御覧ください。

5款基金積立金の決算額は、利子積立金で9万2,000円となっており、令和6年度末の基金残高につきましては、前年度と比較し642万1,441円減の9,523万1,741円となっております。

244ページを御覧ください。

7款諸支出金の決算額につきましては、前年度と比較し433万5,000円減の619万1,000円となっております。

次に、後期高齢者医療特別会計について御説明いたします。

256ページを御覧ください。

1款総務費の決算額につきましては、前年度と比較し30万5,000円増の197万円で、増額の主な理由といたしましては、1の一般管理事業費において、被保険者の増加に伴い被保険者証などの郵便料が増となったことによるものでございます。

257ページを御覧ください。

3款諸支出金の決算額につきましては36万4,000円で、3の後期高齢者医療加入状況につきましては、前年度と比較し255人増の4,544人となっております。

最後に、町営墓地特別会計について御説明いたします。

258ページを御覧ください。

1款1項1目町営墓地管理費の決算額につきましては、前年度と比較し198万3,000円減の248万5,000円で、減額の主な理由といたしましては、令和5年度に実施した集合墓地納骨壇増設工事が完了したことによるものでございます。

2の墓地使用料管理料の状況につきましては、調定額が1,228万1,550円で、収納率は100%となっております。

259ページを御覧ください。

2款1項1目町営霊園等管理運営基金積立金の決算額につきましては、前年度と比較し320万2,000円増の604万3,000円で、増額の主な理由といたしましては、区画墓地及び集合墓地の販売により永代使用料収入が増加したことによるものです。

なお、令和6年度末基金残高は、（2）の表のとおり8,738万2,951円となっております。

260ページを御覧ください。

3款1項1目元金及び2目利子につきましては、たてやま霊園整備のために借入れした地方債の元利償還に要した経費となっております。

以上で、令和6年度町民生活部所管決算概要の説明を終わらせていただきます。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○委員長（伊藤 司君） ここで昼食のため休憩します。再開は13時ちょうどとします。

午前11時57分 休 憩

午後 0時58分 再 開

○委員長（伊藤 司君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

内容の説明が終わりましたので、直ちに質疑を行います。質疑の発言を許します。質疑ありませんか。10番、今野隆之委員。

○今野隆之委員 私からは1点お伺いします。

44ページの収納状況、主要税目について収納率の数値目標なんかは立てているのかどうか。もし立てていなければ何で立てていないのか、その理由を伺います。

それと、令和6年度中の差押えの執行状況、それと公売の実施状況を教えてください。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 収納整理係長。

○収納整理係長（小畑貴信君） お答えいたします。

1点目の収納率の目標率についてということでございますが、こちらのほうにつきましては、3か年計画により今年度までということでの現在収納計画の策定をしております。

2点目の令和6年中の差押え状況ということでございますけれども、40件差押えのほうをしております。差押え債権額としましては704万7,224円を差押えしております。取立てということで349万1,589円を取立てを行いました。

このうち、公売ということでインターネット公売のほう、動産1件ということで、反物等ということで差押えのほうを行いました。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 10番、今野隆之委員。

○今野隆之委員 数値目標を立てているということでお伺いしました。

今回の収納率ですね、数値目標と比べてどうなのか教えてください。

それと、差押え40件ということですが、ここで何ていうかな、換価がちょっと難しいようなものをそのまま差押えしっ放しとかはしていないのか、そこら辺も伺います。

○委員長（伊藤 司君） 収納整理係長。

○収納整理係長（小畑貴信君） まず、1点目の目標におきましての収納率ということですが、こちらのほう、何でしょう、目標値に達していない税目があるという状況ではございます。

あと、もう1点のほうの差押えのほうの難しいものということですが、一応差押えしております動産につきましては公売のほうを先ほどお話しさせていただきました。令和6年度の差押えの状況としまして、給与1件、預貯金で33件、自動車税、普通自動車の還付金5件ということで差押えをしまして、それぞれ取立てを実施したという状況でございます。

○委員長（伊藤 司君） 10番、今野隆之委員。

○今野隆之委員 目標に達していない税目もあるというふうなことで、これについては徴収対策にどのようにフィードバックしているのか教えてください。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 収納整理係長。

○収納整理係長（小畑貴信君） 収納対策連絡会議ということで、毎年、会議のほう幹事会と収納連絡会ということで開催のほうをしております、そちらのほうで状況の報告及び今後の検証等ということで実施をしているところでございます。

○委員長（伊藤 司君） ほかに。（「関連」の声あり）6番、鈴木晴子委員。

○鈴木晴子委員 今の収納状況でございますが、前年度、前々年度よりも滞納のほう数値的によくなったのかなというふうに見ておりまして、皆さん本当に頑張ってしていただいたんだというふうに見ておりました。

そういう中で、計画的には数値はいかなかったということではありますけれども、特にここに強化して取り組んだことによって数値がよくなったというふうな点がありましたら教えてください。

○委員長（伊藤 司君） 収納整理係長。

○収納整理係長（小畑貴信君） 収納率の向上ということでございますけれども、昨年度、県のほうからアドバイザーということで講師のほう来ていただきまして、講習会を開いたりとか様

々な滞納整理と、もちろん県のほうで開催される研修会のほうにも参加をして、各種の滞納処理の手続等について学んでいるところではございますけれども、そういったところで収納率向上ということで、令和5年度ですね、大変すみません、令和6年度実施したというところがございます。

○委員長（伊藤 司君） ほかに質疑ありませんか。2番、阿部彦忠委員。

○阿部彦忠委員 それでは、32ページ、2款1項7目5のまちづくり支援事業についてお伺いたします。

まちづくり支援事業補助金3件となっておりますが、3件どのように使われたのか、内容をお願いいたします。

それから、もう1点ですが、59ページ、2款6項3目3、民間バス運行事業の中の14節バス停留所ベンチ設置工事とこちらありますけれども、何か所ぐらいといいますか、どちらに設置をされたのか、またどういった形状のものであるかをお願いいたします。

○委員長（伊藤 司君） 公共交通係長。

○公共交通係長兼町民協働係長（畠中邦博君） それでは、質問にお答えさせていただきます。

まず1点目につきましては、申請いただきました「ゆるっとナチュラル育児の会」「アート展実行委員会」「利府町刈安染めプロジェクト」の3団体に対して交付を行わせていただいております。

また、ベンチの設置工事につきましては、役場の前にあるミヤコーバスのバス停について更新をさせていただいているところと、イオンの北館の前にありますバス停のほう、こちら新規で設置をさせていただいております。

○委員長（伊藤 司君） よろしいですか。ほかに質疑ありませんか。11番、小渕洋一郎委員。

○小渕洋一郎委員 2点質問いたします。

44ページ、2款2項2目徴収費11節役務費、通信運搬費で令和6年度79万2,000円。昨年度調べてみますと26万4,000円でした。

同じく12節の委託料のところなんですけれども、コンビニ収納業務委託、令和6年度については551万369円。令和5年度、昨年度については373万7,308円ということであります。

収納件数についても見たんですけれども、令和5年度については5万5,320件、令和6年度については5万5,130件。あまり変わっていないところで、先ほどの部長の説明では、手数料の改定によるものと言われておりますけれども、取扱い件数が大幅に増えたわけではない中で、通

信運搬費が3倍、コンビニ収納業務委託料が約1.5倍というふうに大幅に増えております。

この増加についてもう少し詳しく説明していただきたいと思います。

あと2点目。48ページ、2款3項1目戸籍住民基本台帳費、(2)の個人番号カード保有者、表示を見ますと、令和5年度については2万7,336人、令和6年度については2万8,274人となっております。

本町として保有者の数の数値目標というものはあるのか、教えていただきたいと思います。

○委員長（伊藤 司君） 収納整理係長。

○収納整理係長（小畑貴信君） まず、1点目の役務費につきまして御説明させていただきます。

こちらのほうに関しましては、コンビニ収納でのデータ伝送の回線接続料になります。令和5年11月にISDNの回線のほうが終了しておりますので、それに伴いまして新たな回線ということで、現在は6,600円の12か月分ということでの回線接続料というような形になっております。

もう1点、コンビニ収納業務委託料の増加分ということでございますが、こちらのほうにつきまして、令和5年度まで収納代行手数料のほう、1件税別で55円であったものが、令和6年度から1件83円税別というような形で単価のほうの改定ということになっております。こちらのほうで収納件数につきましてはほぼ同数というところでございますが、金額のほうが上がっているというような状況でございます。

○委員長（伊藤 司君） 戸籍住民係長。

○課長補佐兼戸籍住民係長（芳賀明英君） それでは、質問にお答えいたします。

個人番号カードの保有者ということで、委員さんの御指摘のとおり、目標というのは特に町のほうでは設けておりませんで、一応100%を目指して保有を行うような形で進めさせていただいている状況でございます。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 11番、小渕洋一郎委員。

○小渕洋一郎委員 まず、1点目のところのコンビニ収納は単価が上がっているということなんですけれども、この委託業者というのは単一なんですか、それとも何社もある話なんですか。

あと、2点目のところなんですけれども、これ国のほうからの指導とかというのは全くないんですか。

○委員長（伊藤 司君） 収納整理係長。

○収納整理係長（小畑貴信君） 現在1社の業者のほうと委託業務のほう、債務負担で契約をしております。

こちらのほうに各コンビニさんのほうで収納できるというような形になっております。

○委員長（伊藤 司君） 戸籍住民係長。

○課長補佐兼戸籍住民係長（芳賀明英君） では、再度お答えいたします。

マイナンバーカードにつきましては、保有者を増加させるために、町内会のほうですとか、事業等を行って……。

国の指導につきましては特にはございませんけれども、町のほうで町内会の事業のときに案内、マイナンバーを利用させていただくような形で、カードを作ってくださいというような事業は町のほうで行っている状況でございます。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 11番、小渕洋一郎委員。

○小渕洋一郎委員 ちょっと私しつこいかもしれませんが、このコンビニ収納件数、単価が増えて、本当に370万円だったものが550万円になったと、結構でかいなというふうに思ったんですけれども、これに価格改定があったときに、当局としてその業者と交渉するような場面というものがあったのかというところをお願いいたします。

あと、2点目のマイナンバーカードを増やす施策については、町として今後どのように進めていくかというところがあれば御見解をお願いいたします。

○委員長（伊藤 司君） 収納整理係長。

○収納整理係長（小畑貴信君） こちらのほうの改定に伴いまして、令和5年度に変更契約を結びまして令和6年度から実施ということになっておりますので、令和5年度の際、相手方のほうと価格につきましてはの相談というか、お話し合いのほうを行いまして、このような結果となっております。

○委員長（伊藤 司君） 町民課長。

○町民課長（吉田雄一君） お答えいたします。

マイナンバーカードの交付の普及のほうですけれども、利府町のほうは現在90%を超える交付率ということで、先ほどの御質問にも重なりますけれども、国から特に指導ということは受けておりませんが、国のほうもマイナンバーカード1枚でもやはり多く交付するようという

ことで常には強いてきておりますので、今後も行政区のほうと連携を図りながら講習の機会とかをいただいて、その場でマイナンバーカードの交付の推進、普及推進ですね、努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（伊藤 司君） ほかに質疑ありませんか。9番、浅川紀明委員。

○浅川紀明委員 2点お願いします。

44ページ、第4項のオンライン預金照会業務事業とあるんですが、これは税金を収納するために滞納している方の預貯金の状況を照会すると、そういうものなんでしょうか。それが1点目。

2点目は、その下の5番目のところで、収納状況の表のところですけども、残念ながら不納欠損額が1,100万円余りあると。これは、もう最終的には債権放棄ということになるんでしょうか。

なお、多分そうなるんだと思うんですが、利府町と同じ程度の人口、あるいは同じ程度の予算規模の市町村と比べて、この1,100万円という不納欠損額の評価というか、比較というか、それについてはどのように捉えていらっしゃるか教えてください。

○委員長（伊藤 司君） 収納整理係長。

○収納整理係長（小畑貴信君） まず、オンライン預貯金照会システムということで、委員さんのほうからお話がありました差押えを実施する際の金融機関のほうの預金残高の確認するシステムとなっております。

もう1点目の不納欠損につきましてですけども、こちらのほう債権放棄という形になります。

同規模の市町村においての不納欠損状況ということでございますが、各市町村、状況のほう異なるかと思うんですけども、比較のほうは実施はしておりませんでした。

○委員長（伊藤 司君） よろしいですか。（「はい」の声あり）

ほかに質疑ありませんか。7番、金萬文雄委員。

○金萬文雄委員 3点お願いいたします。

41ページ、課税状況の②の住民税賦課状況の表のところなんですけれども、①の納付義務者数は法人で979社で、うち開設が56社ということになっていますけれども、この職種とか規模、教えていただきたいと思います。

2点目、45ページ、（2）の住基事業状況、①の住民基本台帳関係なんですけれども、世帯数で231世帯増えているということなんですけれども、これ内訳ですね、町内と町外の内訳を教えてくださいたいということと、もし町外であれば、どこからが一番多いのかというのを教えてくださいたいと、お願いします。

あと3点目は、国保のほうでお伺いします。

239ページの国保税の状況のところの表なんですけれども、現年度分の調整額で今年が1人当たり11万8,414円で、1世帯当たりが18万3,663円ということで、昨年が1人当たりの調整額で見ると9万8,132円なんです。2万円ほど高くなっています。世帯数でいくと、昨年15万5,419円、2万8,000円ほど高くなっております。

これは予算の議論のときにもお話したと思うんですけれども、かなりやっぱ高くなっている。県の保険料の統一ということも影響されていると思うんですけれども、私はかなり高くなって大変だというふうに町民のいろんな方から聞くんですけれども、窓口のところで高くて大変とか相談とかということも含めて、来ているかどうかというのをちょっとお伺いしたいというふうに思います。

○委員長（伊藤 司君） 町民税係長。

○町民税係長（大友康弘君） お答えいたします。

法人の開設56件につきましては、大部分が大規模商業施設の店舗の入替えによるものとなりますので、小売業または飲食店、また町内で大規模スーパーですとか、物流系の白石沢ですね、そちらの事業所のほうが開店しましたので、物流系のほうがこのうちに入っております。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 戸籍住民係長。

○課長補佐兼戸籍住民係長（芳賀明英君） では、第2番目の質問にお答えいたします。

町内の世帯数の件でございますけれども、世帯数につきましては町内の方が世帯数の条件になっていまして、神谷沢の土地区画整理のほうで若干増えたのと、あと仲町のほうの地区ですね、アパートとかで結構な方が転入されているという状況でございます。

以上になります。

○委員長（伊藤 司君） 国保年金係長。

○課長補佐兼国保年金係長（土屋俊介君） お答えいたします。

国保税の状況でございますが、まず金額が増えている主な要因でございます。

こちらにつきましては、令和6年度に増税となる税率改定を実施させていただいておりますので、こちらによって金額が増えております。

そして、苦情ということなのですが、「金額が増えたのね」ということで確認の問合せ等は何か把握しておりますが、苦情と言えることまでのことはなかったというふうに認識しております。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 7番、金萬文雄委員。

○金萬文雄委員 1点目、小売業が主だという、ほとんどだということなんですけれども、イオンですね。

2点目は、分かりました。町内でなんですけれども、今後のためにもちょっと増えた要因ですね、ここをちゃんとつかんでおいたほうがいいかなと思うんですけれども、どのように捉えているのか、増えた要因というのをどう捉えているかお伺いしたいというふうに思います。

3点目については、苦情じゃない、相談等何件かはあったけれどもということなんですけれども、その下の減免の国民保険税の軽減の状況、医療分見ると、2割、5割、7割の軽減数は加入者世帯比で見ると、令和4年は46.9%、令和5年は2,156世帯で55.6%で、令和6年で見ると世帯数は減っていますけれども、2,143世帯で加入世帯比で見ると57.1%ということで、毎年やっぱり増えているんですね。

去年も聞きましたけれども、どう評価しているのかなというふうに、去年は聞いたときには所得基準の拡大が大きな要因だというふうにお答えしていただいているんですが、令和6年度についてはどうなのかというのをお聞きしたいと思います。

○委員長（伊藤 司君） 金萬委員、1点目は大丈夫ですか。

○金萬文雄委員 1点目はいいです。

○委員長（伊藤 司君） 当局答弁願います。町民課長。

○町民課長（吉田雄一君） お答えいたします。

転入が多く増えたということの要因ということで考えておりますのは、まず、すみません、1回目の質問にもちよつかぶってくるんですけれども、やはり近隣の仙台市とか、あとは多賀城、塩竈、ここら辺からやはり利府町に向かって転入される方というのは結構多いと見ております。

主な要因といたしましては、やはり子育てとか、子ども・子育て関係ですね、非常に力を入

れているというふうに見られている新たなそういう住民の方たち、あと公共交通機関ですね、一駅二駅乗り継げば仙台駅までという、こういった利便性とかも見られて選ばれているというふう到我々としては推測しております。

以上でございます。

○委員長（伊藤 司君） 国保年金係長。

○課長補佐兼国保年金係長（土屋俊介君） お答えいたします。

増加の理由ということで、県への割合がだんだんだんだんパーセンテージが上がっているというのは委員御指摘のとおりでございます。

要因といたしましては、ちょっと昨年度の回答と一緒になんですが、例年対象となる所得金額が増えておりますので、こちらによるものと考えておりまして、税率改正は特に影響ないと考えております。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 7番、金萬文雄委員。

○金萬文雄委員 3点目については分かりました。

2点目ですね、私もちょっといろんな方々に聞くと、仙台の家賃が高いので、こちらに避難と言ってはあれですけども、やっぱり安くて子育て関係が非常に充実しているというふうなところで人気があるというふうにお聞きしていますので、そのとおりかなというふうに思います。

それで、追加で質問ですけども、その下で231世帯が増えているんですけども、人口が、その下の表だと15人減になっているんですけども、これとの関係、世帯は231世帯増えていて、人口が減っているという、この関係をちょっと教えていただきたいと思います。

○委員長（伊藤 司君） 町民課長。

○町民課長（吉田雄一君） お答えいたします。

世帯数が増えているのに住民が、そうですね、減少しているというのは、やはり昔と比べても世帯の中の構成といいますか、変わってきていると思います。まず、先ほど子ども・子育てということでお話しましたので、子供が例えば1人いる世帯で夫婦ということで3人入ってきてということの、今の世帯のスタイルというか、結構見受けられます。

対して、転出とかも同じようにありますけれども、こちら例えば老夫婦で子供の近くにお住まいになりたいがために、利府のほうから出てお子さんたちが住むところの近くにお住まいに

なっていられる方とか、そういった差引きが作用して人口のほうマイナスというふうに働いている部分あります。

以上でございます。

○委員長（伊藤 司君） ほかに質疑ありませんか。14番、羽川喜富委員。

○羽川喜富委員 1点だけ、ちょっと確認だけさせてください。

58ページの総合交通対策事業の中の7節報償の中で、地域公共交通の委員がいると思うんです。前は8人いて、今回7人になったと思うんですが、これの構成がどういう方々になって、前の前年度と同じメンバーか、繰り返しこの内容に関係しているのか、ちょっと教えてください。

○委員長（伊藤 司君） 公共交通係長。

○公共交通係長兼町民協働係長（畠中邦博君） 御質問にお答えさせていただきます。

公共交通会議の委員さんにつきましては、任期は2年となっております。令和6年度に更新をさせていただいております、例えば宮城大学の教授さんですとか、タクシー協会、老人クラブの方々などに参加いただいております。

1名減の理由につきましては、労働組合の方々なんですけれども、該当する方がまだ決まらないというところで昨年度欠席というふうになりまして、マイナス1名になったものでございます。（「分かりました」の声あり）

○委員長（伊藤 司君） ほかに質疑ありませんか。12番、高久時男委員。

○高久時男委員 それでは、3点お願いします。

31ページ、2款1項7目自治振興費の下のほうですね、集会所建設補助金交付事業で、18節ですけれども、沢乙と花園町会に38万5,000円と217万円と出ております。

これ内容をちょっとお聞きしたいなと思ったんです。というのは、建設補助となっているので、建設補助だとたしか戸数で300万円、500万円、1,000万円とか、前の規定はそんな感じだったと思うんですけれども、金額がこれに見合わないの、あと10年に1回ぐらいリフォームするとき、300万円のうち半分150万円補助とかってあるじゃないですか。いろんな補助があるんですけども、その中で何を使って、何でこの金額なのかというところを教えてください。

それと、60ページ、2款6項3目総合交通対策費で、これも下のほうですね、利府町版mobilityの18節、一括で経費委託となっているんですけども、この中身ですね。恐らくアプリ使用料、それとミヤコーに対する運行委託ということで出ていると思います。

一番知りたかったのは、アプリは大体1回質問して1,200万円ぐらい、月100万円ぐらいと聞いているんだけど、運行のミヤコーさんに対する補助です。

昨年の6月、私が一般質問したときには、1台当たり1か月200万円、今年の6月に小渕さんが質問したときは、1か月235万円と回答している。これに関して、その辺の経費の内訳的なもので、あとどういう契約内容なのかって教えてほしいんですよ。たまに見るんだけど、地図出してm o b i の。2台丸々動いているというのはあんまり見られないんです。だから、その場合、どういう契約、例えば確かに運転手の補助、待機しているとか、そういうのもあるだろうから、その契約内容的なものをちょっと教えてほしいなと思います。

139ページ、4款1項7目の環境衛生費です。

この中のゼロカーボンチャレンジ事業ということで、今回874万5,000円という形になっています。当初予算がたしか750万円だったんですね。ちょっと補正までは見ていないんだけど、プラス補正しているかどうかまで見ていないんだけど、この750万円の当初予算、本来だったら補助なので750万円で全部使った段階で終わりというのが正解だと思うんだけど、874万5,000円ということでプラスになっています。

このプラスになった理由というのにも必要だし、あとは何件ぐらいにやったのかな、どういう補助内容なのかというところを教えてください。

○委員長（伊藤 司君） 公共交通係長。

○公共交通係長兼町民協働係長（畠中邦博君） それでは、1点目の御質問にお答えさせていただきます。

まず、沢乙町内会の集会所の補助金につきましては、和式トイレ自体を洋式トイレに変更しているものなどにございます。

2つ目の花園町内会の集会所補助金につきましては、花園1丁目集会所の屋根、外壁塗装、花園3丁目集会所が同じく屋根、外壁補強工事、サッシ交換などの工事で交付しているものにございます。

金額につきましては、修繕の場合だと最大で150万円の補助となりまして、沢乙町内会1か所と、花園町内会につきましては1丁目と3丁目というところで、それぞれ交付をさせていただいて、合計255万850円というふうな形になっております。

2点目の利府町版m o b i 実証運行事業の補助金の詳細について御説明させていただきます。

まず、m o b i の運行経費につきましては約5,160万円、こちらが運行経費となっており、そ

れ以外に運行支援業務といたしまして、システムの利用料、コールセンターの利用料などで年間で約1,186万円、こちらが委託料となっております。そのほかに、効果検証業務といたしまして約880万円、こちら分析などに活用させていただいております。そういったのが大まかなところになります。

御指摘いただきました休憩時間につきましては、2024問題などで運行業務に当たりましては、配達される方とかドライバーさん皆様、休憩時間をしっかり確保しなければいけないというところで御指摘をいただいております。現在、午前中2名体制、午後2名体制というところで、しっかり休憩を取りながら運行しているというところで、2台運行の時間帯はもちろんあるんですけども、どうしても1台運行になってしまう時間もあるというふうな状況でございます。

○委員長（伊藤 司君） 環境衛生係長。

○課長補佐兼環境衛生係長（浅野智寛君） お答えいたします。

3点目ですが、当初の予定では省エネ家電のほうに補助金というのは行わない予定としていましたが、様々な御要望とか御意見頂戴いたしまして、そちらのエアコンのほうも補助金を充てたような形になっております。

そちらが140ページにあります予備費の充用、こちらを行って、太陽光のほか、エアコン、冷蔵庫に対して補助金を行ったような形になっております。

件数の内訳といたしましては、エアコンが74件、冷蔵庫が83件、太陽光発電システムが11件、蓄電池が11件、電動式生ゴミ処理機が16件の内訳になっております。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 12番、高久時男委員。

○高久時男委員 集会所の建設、文字がよくないね。要するにこれリフォームだから、改修とかそういう内容で出してくれると理解しやすかったななんて今思っています。

あと、m o b i に関しては、契約内容とかいろいろミヤコーさんとあると思います。これから持続可能なこれを運行していくには、やはり経費下げなくちゃいけないかなと思っているんですね。その辺のやり方とかいろいろ研究してもらいたいなと思うんですけども、そんな感じです。

要するに、もう必ず4人はいるということですよね。了解です。

家電、やっぱり冷蔵庫とかエアコンとかの要望が多いということですよね。ぜひその辺は深めて、次年度からやってもらいたいなと思うんですけども、補助金出すときって一番いいの

はやっぱり3月だと思うんですよ。3月。

3月は家電メーカー決算だから、えらい安くなる。このとき狙ってやったほうがいいのかなんて、ちょっと思いました。

以上です。あとはいいです。

○委員長（伊藤 司君） 高久委員、答弁は。

○高久時男委員 いいです。結構です。

○委員長（伊藤 司君） 分かりました。

ほかに質疑ありませんか。1番、郷右近佑悟委員。

○郷右近佑悟委員 一巡したということで、すみません。

44ページのコンビニ収納事業の12節コンビニ収納業務委託について、手数料改定によって金額が上がったというふうには伺ったんですけども、コンビニ収納じゃなくてアプリ収納に関しては何か手数料とかそういうのかかるのかというのを教えてください。

○委員長（伊藤 司君） 収納整理係長。

○収納整理係長（小畑貴信君） こちら44ページに記載のほうさせていただいているコンビニ及びアプリ収納の状況ということで、それぞれ取扱い件数のほうを記載させていただいておりますが、どちらとも同額での取扱い手数料という扱いになっております。

○委員長（伊藤 司君） 1番、郷右近佑悟委員。

○郷右近佑悟委員 そうしますと、同額ということなので、コンビニ収納の件数が減ってアプリ収納の件数が逆に増えても金額としては変わらない計算というか、考え方でよろしいですか。

○委員長（伊藤 司君） 収納整理係長。

○収納整理係長（小畑貴信君） 1件当たりの単価は同じになりますので、総件数での件数が同数となれば、委託件数は同じ金額というような形になります。

○委員長（伊藤 司君） ほかに質疑ありませんか。5番、皆川祐治委員。

○皆川祐治委員 私のほうから2点お聞きしたいのですが、58ページの総合交通対策事業の3番、①番の町民バス等の利用実態と課題の整理を行いながら運行内容や通交形態の見直しとありますけれども、これちょっと詳しく教えていただきたいと思います。

もう一つは、③番の、これずっと読んでいくと、バス停の箇所、4か所にベンチを設置したとありますが、この場所を教えていただきたい。

○委員長（伊藤 司君） 公共交通係長。

○公共交通係長兼町民協働係長（畠中邦博君） それでは、お答えさせていただきます。

町民バスの運行内容や運行形態の見直しを含めた路線再編案につきましては、昨年度、委託事業としてお願いをしております、公共交通計画の推進業務としてコンサル事業者のほうに再編案を幾つか提示をしていただいて、庁内で議論しているような状況でございます。

今、まだちょっとこういった再編がいいかというのはちょっとまだ結論は出せてはいないんですけども、バスカルテというのをつくっていただいて、どこのバス停が時間帯で利用者が多いか、そういったのも含めて、本当に必要なバス停とほかの地域で求められているバス停などを今整理をさせていただいている状況で、今年度、公共交通会議でもそれについては議論していく予定としております。

バス停のベンチの設置箇所なんですけれども、先ほどお話しさせていただいた、ミヤコーバスの役場前と、イオン北館前のほうにそれぞれ更新と新設というふうな形で設置をさせていただいております。

○委員長（伊藤 司君） 5番、皆川祐治委員。

○皆川祐治委員 一応内容は分かりました。

そこで、要望なんですけど、一応町民の相談から寄せられたもので……。

○委員長（伊藤 司君） 皆川委員、要望はここでは。

○皆川祐治委員 駄目なんですか。

○委員長（伊藤 司君） はい。意見としてお伺いします。

○皆川祐治委員 できれば、時間というか、短縮できないかということなんです。

何か話によると、1時間に1本しか来ないという相談があったんですね。この時間帯を見直してもらえないかということです。

それと、バス停の4か所の箇所というのは、これは町民の声に基づいてやっているものでしょうか。

○委員長（伊藤 司君） 公共交通係長。

○公共交通係長兼町民協働係長（畠中邦博君） お答えをさせていただきます。

まず、時間の短縮についてございますが、こういった課題につきましては町のほうでも令和4年度に行ったアンケートでそういった御意見いただいて、バスの再編についてこれから検討するとともに、それらを補完的に解決するために、現在、利府町版m o b i というふうな形で乗り合い型のA I オンデマンド交通サービスのほうを導入しているような状況でございます。

ベンチにつきましては、住民の意見と利用者が多い箇所を総合的に勘案して、昨年度4か所を選定させていただいております。

○委員長（伊藤 司君） 5番、皆川祐治委員。

○皆川祐治委員 ①番は了解いたしました。あとよろしく願いいたします。

あと、3番のベンチ箇所の取付けというのは、今後もまだ何か所があるのでしょうか。

○委員長（伊藤 司君） 公共交通係長。

○公共交通係長兼町民協働係長（畠中邦博君） 今年度予算でも1か所分予算を獲得させていただきまして、既にしらかし台のほうに設置をさせていただいており、先日の補正予算でも1か所ベンチの設置工事のほうを可決いただきまして、今後設置を予定しております。またさらに、今回育樹祭の関係で木製のベンチを頂けることになりましたので、併せて、今後ラプラスが来るという加瀬沼公園のほう利用が増えるんじゃないかというところ、そういった箇所などにベンチの設置などを、現在検討しているところでございます。

○委員長（伊藤 司君） ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（伊藤 司君） 質疑がありませんので、以上で町民生活部の決算審査を終わります。

御苦労さまでした。当局は退席願います。

ここで暫時休憩します。再開は14時ちょうどとします。

午後1時45分 休 憩

午後1時58分 再 開

○委員長（伊藤 司君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

審査日程表により、**教育部の決算審査**を始めます。

教育部長より所管事項の内容の説明をお願いします。教育部長。

○教育部長（阿部昭博君） 教育委員会教育部の決算内容につきまして御説明いたします。

まず初めに、歳入予算の主なものについて御説明いたします。

一般会計歳入歳出決算書45ページをお開きください。

23款4項3目5節学校給食費の歳入済額は9,833万9,429円となっております。これは、保護者及び教職員等から徴収した学校給食費収入となっており、令和6年度から学校給食費の無料化学年が拡大したことから、前年度と比較して4,130万6,057円の減となっております。

次に、歳出予算について、主要な施策の成果に関する説明書により御説明いたします。

初めに、教育総務課の主要事業から御説明いたします。

195ページをお開きください。

10款1項1目教育委員会費の決算額は、昨年度とほぼ同額の68万3,000円となっております。内容といたしましては、教育委員4名分の報酬など教育委員会の運営に要した経費となっております。教育委員会会議を13回開催し、教育の振興と充実に努めてまいりました。主な議案につきましては記載のとおりとなっております。

196ページを御覧ください。

10款1項2目事務局費の決算額は1億8,493万6,000円で、前年度と比較し598万5,000円の増となっております。増額の主な要因といたしましては、教育総務課職員人件費の増によるものです。

197ページを御覧ください。

10款1項3目学校教育費の決算額は2億6,763万6,000円で、前年度と比較し5,415万5,000円の増となっております。増額の主な要因といたしましては、スクールサポートスタッフ派遣業務委託などの新規事業によるものです。

それでは、主な内容について御説明いたします。

まず、1の学校教育運営事業につきましては、児童生徒及び教職員の健康保持のため、健康診断を実施した経費などとなっております。

198ページを御覧ください。

2の就学時健康診断事業につきましては、前年度までは1の学校教育運営事業に含んでおりましたが、事業を明確化したものであり、内容としましては前年同様となっております。

3の就学援助等事業につきましては、延べ1,381人の児童生徒に対し学用品や給食費等の助成を行っております。前年度と比べ対象者はほぼ同数となっておりますが、金額については減額となっております。その理由といたしましては、学校給食費の無料化学年の拡大に伴い、給食費の援助費が減額になったことによるものです。また、前年同様、ホームページ等でのPR強化や全保護者宛てに申請案内の配布を行ったほか、入学通知への案内同封や学校入学説明会での案内配布を実施し、周知徹底に努め、保護者の経済的負担の軽減に努めました。

なお、就学援助実人数につきましては、要保護21人、準要保護262人、特別支援82人となっております。

199ページを御覧ください。

7の小・中学校入学支援事業につきましては、新入学となる小学1年生と中学1年生へ運動着を補助し、入学に係る経費の負担軽減に努めました。

200ページを御覧ください。

9の障害児等学習支援員配置事業につきましては、障害のある児童や問題行動等が見られる特別に支援を必要とする児童に対し、正しい学習習慣や生活習慣のサポートを行う特別支援助手を小学校6校に1名ずつ加配したものであります。

13の教育資金利子補給事業につきましては、利府町勤労者生活安定資金融資制度により、教育資金の貸付けを受けた方へ、その貸付金に係る利子の半額を補助する事業となります。

201ページを御覧ください。

14のスクールソーシャルワーカー配置事業につきましては、児童生徒や保護者が抱える不安の解消に向け、学校や関係機関と保護者のパイプ役となるスクールソーシャルワーカー3名を配置し、不登校などの様々な課題の発生に対し早期に対応を行っております。

15の心のケアハウス事業につきましては、不登校や不登校傾向の児童生徒への支援対策として、スーパーバイザー2名、学びサポーター2名、学校学びサポーター3名の計7名を配置し、児童生徒の居場所と学びの場の運営などを行っております。

また、令和6年度からスーパーバイザー1名が不登校相談専門員を兼務し、保護者の相談対応や学校に対する支援などについて強化しているところであります。

16の学び支援室充実事業につきましては、宮城県教育委員会で開催している「学び支援教室支援事業」実践校となる利府第三小学校に支援員1名を配置し、児童の学習や教員の支援に努めました。

202ページを御覧ください。

18の教育業務支援員配置事業につきましては、令和6年度からの新規事業となっておりますが、教員の業務支援を図り、教員が一層児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制を整備するため、スクールサポートスタッフを各学校に1名配置しているものであります。

19の教育環境検討委員会設置事業につきましても、令和6年度からの新規事業であり、本町の教育環境の在り方について広く関係者の意見を聴取し調査検討するため、利府町教育環境整備検討委員会を令和6年度に設置し、学区編成関係や部活動の地域移行に関することなどについて御意見をいただいております。

21のイングリッシュキャンプ事業につきましては、令和6年度に初めて開催したものであり、小学4年生から小学6年生までを対象に森郷キャンプ場を会場にして、アメリカから来町されたボランティアの方々との英語による交流事業となっており、大変御好評をいただきました。

203ページをお開きください。

10款2項1目学校管理費の決算額は3,092万5,000円で、前年度と比較し474万1,000円の増となっております。増額の主な要因といたしましては、学校図書業務員の報酬の増によるものです。

なお、学校管理費の内容といたしましては、各小学校の学校医等の配置に係る経費や校内の管理に要した消耗品、役務費などの経費となっております。

206ページをお開きください。

10款2項2目教育振興費の決算額は、前年度とほぼ同額の744万5,000円となっております。内容といたしましては、各小学校の授業や教育活動に要した消耗品、教材用備品、図書の購入などの経費となっております。

209ページをお開きください。

10款2項3目小学校における学校施設費の決算額は1億9,033万円で、前年度と比較し6,771万円の増となっております。増額の主な要因といたしましては、利府第二小学校建替え調査業務による委託費の増額、小中学校防犯カメラ改修工事、菅谷台小学校LED照明灯改修工事等の工事請負費の増額などによるものです。

213ページをお開きください。

10款3項1目学校管理費の決算額は1,469万5,000円となっており、前年度と比較し184万4,000円の減となっております。減額の主な要因といたしましては、学校図書業務員の報酬の減によるものです。なお、学校管理費の内容といたしましては、各中学校の学校医の配置に係る経費や校内の管理に要した消耗品、役務費などの経費となっております。

215ページをお開きください。

10款3項2目教育振興費の決算額は、前年度とほぼ同額の384万9,000円となっております。内容といたしましては、小学校費同様、中学校の授業や教育活動に要した消耗品、教材用備品、図書購入などの経費や、キャリアシップ事業における記念品等の経費となっております。

217ページをお開きください。

10款3項3目中学校における学校施設費の決算額は2億119万円で、前年度と比較し1億

2,751万3,000円の増となっております。増額の主な要因といたしましては、利府中学校弓道場整備事業に伴う工事請負費等の増額によるものです。

続きまして、生涯学習課の主要事業について御説明します。

14ページをお開きください。

2款1項1目一般管理費のうち、19の町史編さん事業の決算額につきましては、前年度と比較し570万990円減の870万5,810円となっております。減額の主な要因といたしましては、新町史編さん業務委託の業務量減に伴うものであります。

220ページをお開きください。

10款4項1目社会教育総務費の決算額は6,554万1,000円で、前年度と比較し774万8,000円の減となっております。減額の主な要因といたしましては、生涯学習課職員人件費の減によるものであります。

1の生涯学習事業につきましては、主に利府町の生涯学習について広く知ってもらい、活用していただくことを目的に作成した生涯学習ガイドの印刷製本に要した経費であります。

2の社会教育事業につきましては、主に社会教育委員の会議開催に係る委員の報酬や、宮城県社会教育委員連絡協議会への負担金であります。社会教育委員の皆様には本町の社会教育行政について御助言をいただき、事業運営の改善に役立てております。

3の青少年教育・成人教育事業につきましては、月に一度、町内公園や商業施設などの巡回指導を行う青少年育成推進指導員に対する謝金及び十符っ子の日の協力者に対する謝金であります。

ジュニア・リーダー事業においては、ジュニア・リーダー初級研修会の実施に係る松島自然の家の利用に要する経費であります。

221ページを御覧ください。

4の二十歳を祝う会事業につきましては、町の総合体育館を会場として令和7年1月12日に開催しており、298人の新成人が出席しております。主に案内状などの印刷製本や手話通訳派遣に要する経費であります。

222ページを御覧ください。

5の家庭教育事業につきましては、利府町家庭教育支援チーム、通称「とふ・十符」が保護者の学び合いを目的とした年間4回の自主企画や、子育ての不安に寄り添う地域人材の育成として地域教育サポーター養成講座を実施しており、主に講師謝金や運営に要する経費であります。

す。

6の社会教育施設等指定管理者評価検討事業につきましては、令和3年度から指定管理者制度を導入した文化交流センターリフノスに対するモニタリング評価について、外部の意見を聞くための評価懇話会を実施するための経費であります。

7の世代間交流推進事業につきましては、地域のつながりづくりと安心・安全な子供の居場所づくりを目的として、放課後子ども教室、通称「サン・ペア・クラス」を利府第三小学校と青山小学校で、各校年間16回実施しております。また、体験講座と自由遊びを組み合わせた世代間交流事業、通称「リフレンド」を年間11回実施しました。主に講師や地域協力者への謝金であります。

223ページを御覧ください。

9の予備費充用、予算流用の状況につきましては、二十歳を祝う会の円滑な実施のため、会場である町の総合体育館駐車場の除雪業務委託に係る予備費充用と、社会教育功労者表彰受賞者が東京で行われる表彰式に出席するための旅費の流用であります。

224ページを御覧ください。

10款4項2目文化振興費の決算額は266万3,000円で、前年度と比較し59万8,000円の増となっております。

1の館長・分館長報酬につきましては、地域性を生かし住民の健康増進、教養の向上、伝統文化の継承及び世代間交流を通し、地域住民の親和を図ることを目的とする分館活動の中核を担う公民館・分館長26人分の年額報酬となります。

2の公民館活動事業につきましては、文化芸術振興審議会委員8人分の報酬のほか、地区教養教室への講師謝金、スクールバンドフェスティバル実施に係る楽譜購入や楽器運搬の経費、さらには宮城県民文化祭への負担金と利府町芸術文化協会に対する補助金となっております。

225ページを御覧ください。

3の文化・芸術表彰事業につきましては、文化・芸術表彰記念品として表彰者3人分の楯を購入した経費となっております。

4のベビーファースト推進事業「はじめてのえほん」事業につきましては、令和5年度から開始しており、内容としましては、新生児に対する絵本2冊と絵本バッグを無料で贈呈するもので、その経費となっております。

5の十符の菅薦復元制作事業の主なものにつきましては、本町の町名の由来にもなっている

「十符の菅薦」の周知のため実施した制作復元やワークショップに要した経費となっております。

6の文化振興基金運用事業につきましては、芸術文化活動派遣事業として、ピアノコンクールの全国大会などへの出場者3名に対し補助を行った経費となっております。

7の文化振興基金積立金事業につきましては、本町における芸術及び文化の振興を図り、誇り豊かな町民生活及び活力ある社会の実現に寄与することを目的に設置しております、文化振興基金への利子及び積立金及び基金管理の状況となっております。

226ページをお開きください。

10款4項3目文化財保護費の決算額は905万7,000円で、前年度と比較し267万2,000円の増となっております。増額の主な理由は、227ページ、2の埋蔵文化財公開活用事業で、会計年度任用職員を2名増員したことによるものです。

1の文化財保護事業の主なものにつきましては、文化財保護審議会の経費及び町内の遺跡に関する環境整備や発掘調査に要した経費となっております。

227ページを御覧ください。

2の埋蔵文化財公開活用事業につきましては、文化庁の「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業補助金」を活用し、埋蔵文化財の普及・啓発に係る事業に要した経費であります。主なものにつきましては、郷土資料館において遺物整理に当たる会計年度任用職員の人件費及び春日大沢瓦窯跡の説明板設置業務と浜田洞窟遺跡の映像制作業務に要した経費であります。

なお、会計年度任用職員を2名増員した理由につきましては、遺物の台帳作成及び再分類作業に加え、これまで休館していた土曜日、日曜日の郷土資料館について、昨年11月から新たに毎週土曜日及び第一・第三・第五日曜日を開館したことによるものです。

228ページをお開きください。

10款4項4目郷土資料館管理費の決算額は142万円で、前年度と比較して910万7,000円の減となっております。減額の主な理由は、前年度に支出しました郷土資料館のリニューアルオープンに関する経費の減によるものです。

1の郷土資料館管理運営事業の主なものとしましては、郷土資料館で使用した消耗品を購入した経費となっております。

2の郷土資料館民具移設事業の主なものとしましては、旧十符の里プラザ敷地内にありました民具保管用倉庫の解体に伴い、貯蔵していた石碑の処分や遺物等の資料を整理・保管するた

めの棚を購入した経費となっております。

3の郷土資料館普及啓発事業の主なものとしましては、リニューアルした郷土資料館の紹介用リーフレットを作成した経費を支出しております。

なお、（2）の郷土資料館の活動状況であります。教育委員会前のフロアに展示ケースを設置し、出張企画展の開催や松島湾を囲む3町において連携した文化財展、また各種体験教室の開催など、文化財の普及啓発に努めております。

230ページをお開きください。

10款4項5目文化交流センター運営事業費の決算額は2億5,620万3,000円で、前年度と比較して255万6,000円の減となっております。減額の主な理由は、12節委託料の文化交流センター指定管理料及び18節負担金、補助及び交付金の光熱水費として補填した負担金の減によるものであります。

1の図書館管理システム賃貸借事業につきましては、図書館資料管理システムの賃借に要した経費となっております。

2の文化交流センター管理運営事業につきましては、文化交流センターリフノスの管理運営業務を含む指定管理料及び光熱水費、施設使用料減免額の補填に要した経費となっております。

（2）の施設管理運営の状況であります。令和6年度におきましては25万207人の来場者がありました。また、図書館におきまして、貸出冊数31万555冊、貸出者数8万4,018人となっております。

231ページを御覧ください。

3の印刷機賃貸借事業につきましては、リフノスに設置している印刷機の賃貸借に要した経費となっております。

4の地中熱設備利用調査事業につきましては、リフノスを建設する際に補助金交付を受けた条件として提出を義務づけられている地中熱利用状況報告書の作成を業務委託した経費となっております。

なお、報告書の作成につきましては、令和6年度で完了となります。

232ページをお開きください。

10款5項1目学校給食施設管理費の決算額は6,664万6,000円で、前年度と比較し902万2,000円の増となっております。増額の要因といたしましては、調理機器の入替え等による賃借料や備品購入費、栄養管理システム導入委託料などの増によるものです。

なお、内容につきましては、みんなのお昼キャロット館、みんなのお昼ポテト館の施設管理及び学校給食の提供に必要な消耗品、修繕費、備品などの経費となっております。

235ページをお開きください。

10款5項2目学校給食費の決算額は2億8,388万8,000円で、前年度と比較し583万8,000円の増となっております。増額の主な要因といたしましては、物価高騰による賄い材料費の増、また給食費無料化学年の拡大に伴い給食費助成事業の増によるものでございます。

なお、内容といたしましては、各小中学校の給食提供に係る賄い材料購入経費と給食の調理、配送業務委託に要した経費となっております。

以上が令和6年度教育委員会教育部所管事業の主要な施策の成果に関する説明でございます。御審議のほどよろしく願います。

○委員長（伊藤 司君） 内容の説明が終わりましたので、直ちに質疑を行います。質疑の発言を許します。質疑ありませんか。2番、阿部彦忠委員。

○阿部彦忠委員 それでは、主要な施策の成果に関する説明書14ページ、2款1項1目19の町史編さん事業についてお伺いいたします。

こちらの町史編さんについてなんですけれども、発行部数、何冊ほど発行されているのか。また、販売、寄附、それぞれ幾ら、どれぐらいずつの内訳だったのか、内容についてお伺いいたします。

○委員長（伊藤 司君） 当局答弁願います。文化振興・リフノス係長。

○課長補佐兼文化振興・リフノス係長（鈴木厚広君） お答えいたします。

14ページの町史の関係でございます。

発行部数につきましては、500部となっております。現代編と歴史編2冊1セットで500セットを発行してございます。

あわせまして、販売部数でございますけれども、令和6年度におきましては223セット、プラス贈呈部数ということで無償贈呈した関係がございまして、そちらが147セットでございます。全部で370セットを出しております。残部数が、令和6年度末では130セットということになります。

以上であります。

○委員長（伊藤 司君） 2番、阿部彦忠委員。

○阿部彦忠委員 こちら全ての部数が販売された場合なんです、利益などそのようなものは見

込めるものなのでしょうか。

○委員長（伊藤 司君） 文化振興・リフノス係長。

○課長補佐兼文化振興・リフノス係長（鈴木厚広君） お答えいたします。

1セットですね、今、4,000円で販売をさせていただいております。それに加えまして発行経費、編集に係る委託料等を考慮いたしますと、利益という部分につきましてはなかなか見込めないのかなというふうに考えてございます。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） ほかに質疑ありませんか。3番、須田聡宏委員。

○須田聡宏委員 では、お願いします。

施策の説明書の199ページ、1項3目地域教育力向上支援事業について。

まず、7節のところから補償費です。講師謝礼あります。この講師謝礼は、どのような講師の方の講義を行ったのか、内容を教えてください。

その下の表彰等記念品、金券類とありますが、これはどのような内容に対して贈られたものなのか、内容を教えてください。

さらに、その下の8節と13節、関わりあるのかと思うんですが、旅費、講師の旅費というところと、それから高速道路通行料とあるんですが、これは7節の講師の方に対するものなのか、関連について教えてください。

続いて、12節の委託料、学力検査業務委託、これ標準学力検査の委託料ということなんですが、この委託の内容について教えていただきたいんですが、要は教員のやるところと委託するところの区別というか、どこからどこまでが事業者のほうにお願いしているのかというところ、その部分を教えていただきたいと思います。

お願いします。

○委員長（伊藤 司君） 教育指導係長。

○課長補佐兼教育指導係長（島津恵子君） それでは、お答えいたします。

初めに、7節の講師謝礼につきまして、どのような講義研修を行ったのかということでございますけれども、こちらのほうにつきましては、教職員の指導力向上のための研修を町独自で行っておりまして、ICTに関することや授業運営や研究などに各学校のほうで目的を持って外部講師をお呼びして、研修を実施する際の講師料となっております。

関連しまして、8節の旅費、費用弁償につきましても、委員お見込みのとおり、こちらの講

師の旅費になっております。

それから、7節に戻りまして、表彰等記念品につきましては、こちら金券類となっておりますが、スクールシップ学び合い学習というものを夏休みの期間中に実施しておりまして、中学生が小学生のほうに算数を教えるということを夏休み期間中に2日間実施しております。そちらで、ボランティアで来ていただいた中学生に記念品として図書カードのほうを贈呈しているという事業になります。

それから、13節の高速道路通行料につきましては、こちらは先ほどの講師謝礼などとは全く別な事業に関するものでして、内容としましては、令和7年度から福島県天栄村の英語研修施設のブリティッシュヒルズの事業を開始したんですけれども、そちらの事前の視察研修ということで、職員のほうが現地を見ておりまして、その際の高速道路使用料となっております。

それから、12節の委託料、学力検査の業務委託料につきましては、こちらは毎年12月に町で行っております学力調査の費用、業務委託の費用となっております。対象者が小学校4年、5年、6年、中学校の1年生、2年生、教科のほうは国語、数学、算数、英語となっております、こちらを問題の学校への送付、それから学力検査をした後の問題の回収、それから個人ごとにも点数が出ますので、そちらのほうの結果の学校への送付とか、あと学校ごとの結果送付といったところを業務委託しております。

学校の先生にさせていただくことについては、学力調査を行うときの試験官というか、そちらのほうと、あと学校のほうに戻ってきた学力調査の結果を各自分析をして、学校の授業に反映してもらうための分析とか、そういったところ、それから一人一人への結果も出ますので、そちらのほうを保護者のほうに交付して、一人一人の指導のほうに生かしていくといったような内容になっております。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 3番、須田聡宏委員。

○須田聡宏委員 ありがとうございます。

講師の方の件についてちょっとお尋ねします。

講師の方は1名になるのでしょうか。

あと、それぞれの研修ということでさっきお話ありましたけれども、どちらの学校で行われたのか、それから対象となった先生方というのはどちらの学校、または全町内の対象が広く参加できたものなのかお尋ねします。

それから、標準学力検査について内容のほうよく分かりました。

確認なんですけれども、採点については業者のほうで行うということでよろしいかということと、それから、あと大事な部分なんですけれども、やはり結果が出てきてからのアフターケアというところが一番大事なところだと思います。その点についての町としてのフォローというか何か、ただ先生たちがその結果をもとに子供たちにきめ細かい指導をしてくださいで終わるのではなくて、そこから先のことがあればお聞きしたいと思います。

お願いします。

○委員長（伊藤 司君） 教育指導係長。

○課長補佐兼教育指導係長（島津恵子君） お答えいたします。

まず初めに、研修についてなんですけれども、令和6年度につきましては、小学校が3校、それから中学校が1校、合計4校で外部講師の依頼しております。

回数としては、各学校1回のところもあれば、学校によっては2回もしくは3回ということで、合計7回講師の先生をお呼びした形になります。

それから、夏休み期間中に全ての学校の先生を集めた教育講演会というものも行っておりますので、そちらのほうの講師の方が1回分、合計8回分の講師謝礼となっております。

学力検査のほうについてなんですけれども、結果が出てからのアフターケアについてなんですけれども、町のほうで学校教育専門員を会計年度任用職員で教育指導係に1名配置しておりますので、そちらの職員が各学校のほうに行って、今回の検査結果でどこが弱いとか、こういったところ授業改善したらいいのではといったような、指導に関しての指導等を行っている状況になっております。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 3番、須田聡宏委員。

○須田聡宏委員 先ほど講師の方の人数なんですけど、8回行ったということで、それは1人の方ではなくてそれぞれまた違う方が担当したということで、確認をお願いします。

○委員長（伊藤 司君） 教育指導係長。

○課長補佐兼教育指導係長（島津恵子君） 大変失礼しました。

1人の講師の方ではなくて複数の講師となります。令和6年度については5名の先生にお越しいただいている状況であります。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） ほかに質疑ありませんか。11番、小渕洋一郎委員。

○小渕洋一郎委員 2点伺います。

主要な施策の成果に関する説明書の202ページ、10款1項3目学校教育費の12節児童生徒用タブレット端末設定業務委託79万4,200円とあります。

これは初期設定なんでしょうか。具体的な説明をお願いいたします。

もう1点、2点目です。

222ページ、10款4項1目社会教育総務費7節報償費、世代間交流事業サポート63万7,780円。これ先ほど部長から説明があったんですけども、この世代間交流の実施状況「リフレンド」の開催について、延べ382名、開催回数11回とありますが、もう少し詳しくどんなことをやったのか説明願います。

○委員長（伊藤 司君） 教育指導係長。

○課長補佐兼教育指導係長（島津恵子君） それでは、1問目にお答えいたします。

児童生徒用タブレット端末設定業務委託につきましては、こちら年度の途中でタブレットを破損してしまった場合の修繕費というのが前のページにあるんですけども、これと関連しまして、修繕した後のタブレットに初期設定をし直すという作業が発生しますので、その分の費用となります。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 生涯学習係長。

○課長補佐兼生涯学習係長（武田裕光君） それでは、リフレンドについてお答えいたします。

まず、世代間交流事業「リフレンド」につきましては、その目的は体験講座や自由遊びを通して地域の方と小学生の世代間交流、異学年の交流を促し、子供にとっての安心・安全な場所づくりを目的とする活動になっております。

対象といたしましては、小学生となっておりますので、小学校1年生から6年生までということになっております。

開催の詳細につきましては、年間10回実施しております。昨年度につきましては、それに特別会1回つきまして、計11回実施しているところになります。

主に土曜日に町の総合体育館を会場に実施しております。

募集の方法は、各回先着順ということで募集をしております。

参加児童数は、先ほど申し上げましたが、延べ382人ということになっております。

主な体験講座の内容といたしましては、例えば包括連携協定を結んでおります宮城海上保安部の巡視船の船内見学、それから、ナーフという活動、または落語や将棋というところで、スポーツ、見学、それから文化の部分まで幅広く取りそろえております。

以上です。（「結構です」「関連」の声あり）

○委員長（伊藤 司君） 関連。10番、今野隆之委員。

○今野隆之委員 1点目のタブレットですけれども、タブレット端末等修繕ということで、どういった修繕が多かったのか。それと、タブレットの台数ですね、教えてください。

○委員長（伊藤 司君） 教育指導係長。

○課長補佐兼教育指導係長（島津恵子君） お答えいたします。

修繕の内容なんですけれども、主に児童生徒用のタブレットで液晶画面の破損が多かったです。

台数としましては、36台修繕しております。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） ほかに質疑ありませんか。（「関連」の声あり）3番、須田委員。

○須田聡宏委員 すみません、先ほどの小渕委員の関連で、リフレンドについてお願いします。

多分高校生のボランティアとかも入っていたりする内容かと思うんですけれども、参加年齢層、例えば30代、40代、50代、60代とか、そういう方々たちも関わられている内容なのかということも含めて、主になる対象は小学校の1年生から6年生だと思いましたが、それ以外の年齢層の方どのぐらいの割合で関わってきたのかというのを教えていただきたいというのと、あと全体通して幅広い世代間の交流は実現しているかというところ、当局のほうでの感じを教えてくださいましたらと思います。

○委員長（伊藤 司君） 生涯学習係長。

○課長補佐兼生涯学習係長（武田裕光君） 御質問にお答えいたします。

まず、年齢層につきましては、30代から70代まで参加していただいております。その中心になりますのは、50代または60代が中心となっているところになります。正確な割合はちょっと把握していないんですけれども、およそ50代から60代が3分の1というふうなところになっております。

ちなみに、高校生も参加してくださいまして、高校生は、全体32名のサポーターと呼ばれる地域の方いらっしゃるんですけれども、そのうち7名が高校生となっております。

それから、世代間の交流が実現しているかというふうなところなんですけれども、各回体験講座終了後、本人及び保護者にアンケートを取っておりまして、そのアンケートの結果を見ますと、「地域の方と一緒に活動できてうれしい」というふうな質問項目の回答で、非常に多くそういった回答がありますので、世代間交流は着実に進んでいるというふうに考えております。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） ほかに質疑ありませんか。（「関連」の声あり）2番、阿部彦忠委員。

○阿部彦忠委員 1つ前のタブレットの修繕についてお尋ねいたします。

液晶画面の破損が多かったということなんです、これはいわゆる登下校中の運搬中ですか、御家庭内で起きているものなのか、例えば学校のなんでしょう、学習机から誤って床に落としてというようなものが多かったのか、その辺り、もし把握しているようであれば教えてください。

○委員長（伊藤 司君） 教育指導係長。

○課長補佐兼教育指導係長（島津恵子君） お答えいたします。

こちらのほうにつきましては、ほとんどが学校の授業中に机のほうから誤って落としてしまった破損というのが非常に多い状況になっております。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） ほかに質疑ありませんか。14番、羽川喜富委員。

○羽川喜富委員 1点だけ、確認というより教えていただきたい。

202ページのイングリッシュキャンプ事業の内容なんですけれども、先ほど部長の説明では小学校4年生から6年生まで参加されているというような内容なんです、実際いつの時期に何人参加して、何回実施したかという形があるのか、まず教えてください。

○委員長（伊藤 司君） 教育指導係長。

○課長補佐兼教育指導係長（島津恵子君） お答えいたします。

人数については27人になります。

それから、時期につきましては、8月の上旬にデイキャンプということですので、宿泊なしで2日間実施しております。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 14番、羽川喜富委員。

○羽川喜富委員 参加したのが27人ということなんですけれども、これは自由に小学校6年生ま

での間に自由に参加するというか、学校関連は関係なくということですか。どこの学校でも大丈夫ということですか。

それと、ボランティアでアメリカの方だと思えるんですけども、どのような関係でこの方々がボランティアで参加してくださっているのか、この点をお願いします。

○委員長（伊藤 司君） 教育指導係長。

○課長補佐兼教育指導係長（島津恵子君） お答えいたします。

参加につきましては、利府町内に居住している小学生ということで、町のほうで募集しておりますので、主に利府小学校は多かったんですけども、町内の各小学校から御参加いただきました。

それから、このボランティアで来ていただいた方々なんですけれども、こちらのイングリッシュキャンプ事業を業務委託しているのが、実施場所が森郷キャンプ場になるんですけども、そちらの森郷キャンプ場の管理運営をされている利府の基督教の教会さんになりますので、そちらのほうと交流のあるガーデナバレーパブテストチャーチの皆さんがお越しいただいたということになります。

以上です。（「分かりました」の声あり）

○委員長（伊藤 司君） ほかに質疑ありませんか。（「関連」の声あり）6番、鈴木晴子委員。

○鈴木晴子委員 イングリッシュキャンプのほうなんですけれども、町としてそれを行った効果をどのように捉えていらっしゃるのかというところと、これたしか令和6年度で終わってしまっているのかなというふうに思っておりますが、その辺の理由をお伺いいたします。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 教育指導係長。

○課長補佐兼教育指導係長（島津恵子君） お答えいたします。

こちらのイングリッシュキャンプ事業につきましては、令和6年度に初めて実施したものでなんですけれども、令和7年度につきましても同じ8月上旬に、同じような内容で実施をしまして、2年目ということで実施した事業になります。

効果としましては、参加者のアンケートを取っておりまして、子供たちからの感想、それから保護者からの感想と2種類取っているんですけども、子供たちが英語に身近に感じて楽しく英語に触れることができたということで、また次年度も参加したいといったような声も多く聞かれまして、このような事業の影響というのがあるんだなというふうに感じまして、また2

年目ということで実施を続けたところであります。

さらに、保護者の方のほうからも、ふだん自分からこういう事業に参加するといったことがないお子さん方が積極的に参加したいというふうに申込みをされているということもあり、英語に興味のあるお子さん方がこちらの事業にとっても興味を持って参加して下さったんだなというふうに感じておりました。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） ほかに質疑ありませんか。9番、浅川紀明委員。

○浅川紀明委員 3点お願いします。

まず、195ページ、1番目の教育委員会報酬事業について、おおむね月1回程度開催されているようなんですが、私の認識では教育委員会というのは、町の教育の方針的な大事なことを審議する場ではないかなという認識があります。

ですけれども、③の主な議案だとか、その他の報告を見ると、ちょっと違うのかなと。

私の認識では、例えばこの前一般質問で私が質問したところの中学校の部活動の地域移行の件だとか、あるいは先ほどタブレットのことが出ましたけれども、タブレットの教科書を本当に今後とも使っていくのかとか、文部科学省と中央教育審議会との関係もありますけれども、そういった利府町としてどうするんだというような、もっと大きな問題を審議してしかるべきなのかなと思うのですが、実際されているかどうか。また、1回当たりの審議時間というのはどれぐらい費やしているのか、それを教えてください。

それから、2点目、大きく2点目は、197ページから202ページまで学校教育費についての各種事業が記載されています。その中で、学校内にたくさんの支援要員、サポート要員が配置されるようになっているという説明がありました。

最後2点だけ、先ほど教育部長の説明で聞き漏らしたかもしれないので2つほど教えていただきたいんですが、200ページの第10番目、学校教育専門指導員設置事業、これ会計年度任用職員2人が採用されていますが、どのような業務をやっているのか、また、どこに配置されているのか教えてください。

それから、最後2つ目は、202ページ、第18番、202ページの18番、教育業務支援員配置事業、これはどこかの団体、会社に業務委託されているのかなと思うんですけれども、スクールサポートスタッフという名称ですけれども、これはいわゆる用務員さんのことをいいますか、それとも別の業務を担っていますか。その辺のところを教えてください。この業務委託して

いる会社はどのような会社なのか、団体なのか、教えてください。

3番目、209ページ、学校施設費の関係で1番目、小学校施設管理事業とありますが、（1）の10節需用費の内訳として、修繕料、施設等修繕54件とあります。金額にして1,000万円余り。実は青山小学校、それからしらかし台小学校に子供を通わせている父兄から、学校で至るところ要修繕というか、修繕が必要な箇所があって、なかなか何回か学校に足を運ぶけれども、なかなか修繕されていない状況だというような意見を聞いています。耳にしています。

実際に令和5年度とこの修繕費用を比較してみると、令和5年度は約400万円、昨年度は1,000万円余りということで、それなりに増えてはいるんだと思うんですが、何をお伺いしたいかというと、学校からの小規模修繕の要望はほとんど全て満たしているのか、なかなか予算がないからできないとか言って延期になっているケースが結構あるのか、その辺の実態について教えていただきたいと思います。

○委員長（伊藤 司君） 当局答弁願います。総務学事係長。

○総務学事係長（太田洋美君） お答えいたします。

まず、1点目の教育委員会費の教育委員会報酬事業についてというところですが、議案に関しましては主な議案ということで載せておりますけれども、こちらに載せている以外についても先ほど委員がおっしゃいました部活動の地域移行であったり、児童生徒の不登校の問題とか、あとは学力検査の結果に対しての今後の教育の仕方とか、そういったところも議案として話し合いをしております。

会議の時間については、1回当たり1時間から2時間程度の会議内容となっております。

続きまして、スクールサポートスタッフ配置事業について、私のほうから回答差し上げます。

業務内容につきましては、学校行事の準備だったり、児童生徒へ配布するプリントの印刷と配布準備ですね、あと来客対応、校内の清掃など、教頭先生の指示により業務をしていただいているところです。

委託先につきましては、シルバー人材センターのほうに委託をしております、1日4時間程度の勤務をしていただいているというところです。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 教育指導係長。

○課長補佐兼教育指導係長（島津恵子君） それでは、200ページの10の学校教育専門指導員設置事業に関してお答えいたします。

こちらは2名の会計年度任用職員ということなんですけれども、1人は先ほども少しお話ししましたが、学校教育専門員という職種になります。こちらの方については、主に授業の指導とか、あと教職員の研修とか、そちらを担当しております。

それから、もう1名は教育相談専門員ということで、生徒指導や問題行動等のある生徒に関する学校指導ですとか、そういったところを担当していただいております、2名とも教育指導係のほうに配置している職員となります。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 学校施設係長。

○学校施設係長（菅澤誠也君） 3点目についてお答えいたします。

修繕についての対応につきましては、各学校から要望いただいているところ、毎年1回要望を受けておまして、今年度からは毎年秋に当初予算用にとっていたんですけれども、新年度やっぱり半年ぐらいたちますので、今年から年2回要望を聞いております。

その中で、大規模な何百万円とかかるのはちょっと現場を見たり緊急性を見たりやっております、修繕につきましては、基本的には何かあったら学校からすぐ連絡くださいと。それで、担当のほうが見まして、子供たちの安全性を第一とさせていただいて、すぐ修繕させていただいて対応していると。少し待っていただくものにつきましては、予算要求で補正等で対応していただいて、その状況に応じて対応しているところでございます。

○委員長（伊藤 司君） 9番、浅川紀明委員。

○浅川紀明委員 分かりました。ありがとうございます。

教育委員会のところでもう少し質問します。

先ほど私が教育委員会の位置づけについて、自分なりの認識を言いましたけれども、その認識は間違っていないですか。

要するに利府町の教育に関する方針的な大事なことを決める審議会だと、そういうことで間違いないでしょうか。

○委員長（伊藤 司君） 総務学事係長。

○総務学事係長（太田洋美君） 委員のおっしゃるとおり、大事なことを決める場でありますので、そのような会議となっております。

○委員長（伊藤 司君） 9番、浅川紀明委員。

○浅川紀明委員 であれば、この書き方の問題なのかもしれませんが、主な議案だとかの

ところ、いわゆる恒常業務の延長のような書き方ではなく、こういった大事なことを教育委員会の本旨というか、存在意義に基づいてこういったことを審議したんだというふうに表現されたほうがいいのかなと思います。

○委員長（伊藤 司君） 教育総務課長。

○教育総務課長兼学校給食センター所長（小野寺厚人君） お答えいたします。

確かに今、委員おっしゃるとおりの部分もございますと思いますので、次年度以降、昨年度に比べて少しその他の報告のところは書き足して工夫はしておったんですけれども、確かにもう少し重要な中身を審議いただいている、検討いただいている委員会でございますので、まさに教育委員会そのものでございますので、利府町の教育の推進の方策について話していただいたりとか、常々重要な議案について審議、報告、議論をしているところでございますので、もう少し書き方について工夫できればいいかなと思います。

以上でございます。

○委員長（伊藤 司君） ほかに質疑ありますか。7番、金萬文雄委員。

○金萬文雄委員 2点お願いいたします。

197ページの学校教育運営事業の中の下のほうの(1)の一番下、④の心の健康チェック事業、ストレスチェックのことなんですけれども、これは全国で同じストレスチェックを使っているのかということなんですけれども、全体的に利府の傾向というか、ストレスチェックの結果の傾向というのはどうなのか。あと、年度ごとの傾向というのはどうなのかというのをお知らせいただきたいと思います。

2点目、200ページのところの一番下の13の教育資金利子補給事業のことで毎回言っているんですけれども、労金の在学中の学資基金利子の半分为補助ということなんですけれども、これ補助金、令和4年度は13人分で15万円だったんですけれども、令和5年度が9万4,200円で12人分、令和6年度が5万1,900円で4人というふうに、どんどん減少しているんですね。昨年もお話ししたと思うんですけれども、これ本当に住民のニーズに合致しているんだろうかということ非常に疑問です。この評価をどう捉えているのかというのをお聞きしたいというふうに思います。

○委員長（伊藤 司君） 当局答弁願います。総務学事係長。

○総務学事係長（太田洋美君） お答えいたします。

まず、1点目のストレスチェックにつきましてですが、こちらは公立学校共済組合のほうに

委託しておりまして、全教職員を対象に実施をしております。

個人ごとにストレスチェックを行いまして、分析結果の報告書のほう提出していただくものとなっております。メンタルヘルスの不調などを未然に防いだりというところを目的としておりますけれども、傾向というところ、教員のストレス状況であったり、その要因というところをこちらでも把握できるようにしておりますけれども、すみません、傾向のところは今ちょっと資料を持ち合わせておりませんでした。すみません。

すみません。結果のほうで医師につながるような結果が出た教員はいないというところでした。

続いて、2点目の利子補給事業についてです。

こちらにつきましては、町民のニーズに合致しているのかというところですが、国や県においても経済的な支援というところが整備されてきておりまして、町独自というところはこの補給事業のみになっておりますけれども、国や県のほうにおいて手厚く支援していただいている部分がありますので、町のほうでやっている事業はこれで十分かなというところであります。よろしくお願いします。

○委員長（伊藤 司君） 7番、金萬文雄委員。

○金萬文雄委員 1点目ですけれども、ほかと比べてストレス度は、うちの町の教職員については高いのか低いのか、あるいは同じ程度なのかということをお聞きしたかったんです。

それに対して、フィードバックどうしているのか、そして対策をどうしているかというのをお聞きしたいと思います。

2点目に関しては、そろそろこの事業に対して何か別な方法を考えたほうがいいんじゃないかなというふうに思います。年々減少していますし、今回4人ということで、1人1万円ちょっとぐらいかなとは思いますが、やっぱり学費が上がっているところで需要は高いと思うんですね。なので、資金の借りたいという需要は高いと思うんですけれども、私がずっと言っているように、町独自の教育資金の創設とか、あるいは利子を全額支給するとか、そういうようなことも含めてこの政策について少し考えて、改善の方向で考えるべきなんじゃないかなというふうに思いますけれども、いかがでしょうか。

○委員長（伊藤 司君） 教育総務課長。

○教育総務課長兼学校給食センター所長（小野寺厚人君） お答えいたします。

まず最初に、利子補給のほうについてお答えさせていただきますけれども、以前一般質問等

でもお答えしているところでございますが、非常に有効な施策、新たに奨学金制度を創設することについては非常に有効な施策なんだろうとは認識しておりますけれども、国や県においても経済的な支援が整備されているということもございまして、今のところ町独自では実施する場合については財源を要するというのもございまして、教育委員会としてはこちらのほうの新たな制度の創設というところは今のところは考えておりません。

もう一つ、ストレスチェックのほうについてでございますけれども、ほかの自治体と比べてというところでございますけれども、すごく詳細な比較データは出ておりませんけれども、全国ベースであったり、宮城県内のほかの自治体さんと比べたときには、そこまで利府町のストレスが高いということはございませんでした。

あとは、各学校へ改善のアドバイスが実施主体から来ておりますので、そういったところを配布して、校長会等でも「こういった結果が出ています、これからもよろしくお願いします」ということでお伝えしているところでございます。

以上でございます。

○委員長（伊藤 司君） 7番、金萬文雄委員。

○金萬文雄委員 2番目に関しては一般質問を含めて何回かやっているんですけども、こちら辺はあまり答え変わっていないのでいいんですけども、1番目に関しては、例えばひどい方に関しては面談をするとか、そういうことも含めて対策を取られているのかどうかということをお聞きしたいです。

あと、メンタルヘルス、全国的に教職員のメンタルヘルス問題になっていきますけれども、うちのメンタルヘルスの休職の年間の人数とかも含めて教えていただければと思います。

○委員長（伊藤 司君） 教育部長。

○教育部長（阿部昭博君） お答えいたします。

メンタルヘルスのフィードバックといいますか、心配される教員に関しましては、各学校ごとに校長もしくは教頭が、ケース・バイ・ケースによるんですけども、折に触れてといいますか、面談等を行い、少しでも心のケアがされるように工夫しているところでございます。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） ほかに質疑ありませんか。

質問される方、何人ぐらいいらっしゃいますか。

ここで暫時休憩します。再開は15時25分といたします。

午後3時10分 休憩

午後3時21分 再開

○委員長（伊藤 司君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

ほかに質疑はありませんか。6番、鈴木晴子委員。

○鈴木晴子委員 1点お伺いいたします。

222ページ、お願いします。10款4項1目の社会教育総務費の6番の社会教育施設等指定管理者評価検討事業ということで、7節報償費が4万6,800円計上されております。この金額、報償費のほうですね、お1人基準的なものがあるのかお伺いいたします。

それから、どのような方についていただいているのかお伺いいたします。

○委員長（伊藤 司君） 文化振興・リフノス係長。

○課長補佐兼文化振興・リフノス係長（鈴木厚広君） お答え申し上げます。

222ページの6番に関してでございます。

社会教育施設等指定管理者評価検討事業の委員の報償費の件でございます。

委員長が1人おりまして7,200円、委員が6,600円ということで、いずれも日額でございます。

こちらのほうの委員につきましては、利府町の社会教育委員という委員がおりますけれども、そちらのほうと同じ委員をお願いしているところでございます。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 6番、鈴木晴子委員。

○鈴木晴子委員 令和5年度の決算書を見ますと、同じ4万6,800円で8人となっていたんですね。

その辺と、令和6年度の関係の違いをちょっと聞きたいことと、それから、今、いろいろなところの7人の皆様から御意見をいただいていることとっております。その意見の内容どのようなものがあつたのか、その意見をどのように反映されているのかお伺いいたします。

○委員長（伊藤 司君） 文化振興・リフノス係長。

○課長補佐兼文化振興・リフノス係長（鈴木厚広君） お答えいたします。

令和5年度との人数の違いでございます。

令和5年度につきましては、公職についている等の理由によりまして、報酬を発生しない委員の分も1名記載させていただいておりました。ということで、今年度は委員を実際支給している人数ということで改めさせていただいております。

続きまして、評価懇話会委員からの意見ということでございますけれども、こちらのほう、リフノスのほうの指定管理事業につきまして評価いただいているものでございまして、まず初めに、評価シートというものをリフノスのほうで自分で作成してまいります。そちらのほうを事務局である我々のほうで精査をさせていただきまして、それを評価委員のほうに、委員会のほうに上程をしていくというふうなことでございます。

おおむねリフノスのほうの運営状況につきましては、管理業務の履行状況、または事業の実施状況、あと利用者の満足度、経営状況、成果指標の達成度という5項目で評価しております。いずれもAからSという評価をいただいております。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 6番、鈴木晴子委員。

○鈴木晴子委員 町のほうで作ったシートによって評価をされているということでありました。

そのシート以外にいただいた意見であったり、御指摘いただいた点があるのであれば教えていただきたいと思います。

○委員長（伊藤 司君） 文化振興・リフノス係長。

○課長補佐兼文化振興・リフノス係長（鈴木厚広君） お答えいたします。

昨年度評価いただいたのは、令和5年度事業につきましてでございます。

利用される方々の声を積極的に取り入れ、改善しながら多種多様な事業展開を図っており、図書館、公民館、文化会館ともに高い評価につながっている。これまでの利府のイメージとしては、イオンや新幹線車両センターが認知度が高かったが、最近ではリフノスの名前がよく聞かれるようになり、知名度が確実に上がっていると感じる。これは指定管理者の事業推進と積極的な情報発信を続けてきた成果であり、高く評価したい。

おおむねこのような意見をいただいております。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） ほかに質疑ありませんか。（「関連」の声あり）9番、浅川紀明委員。

○浅川紀明委員 リフノスの評価の関連でお尋ねします。

メンバーについて、答弁として社会教育委員と同じだということだったんですけれども、具体的にどのような方になっているのか教えてください。

それから、評価の要領として、先ほど段階評価みたいなことは結論としてあったということなんですけれども、その評価の前提となる利用者の声、利用者の意見というのは、どのように

収集されて、評価の場に提示されたのか。それは何ていうか、十分でないと評価しようがないかなと思うんですね。何となくいいね、頑張っているねじゃなくて、やっぱり利用者の幅広い意見なり評価なり、目安箱かなんか置いているかどうか分からないんですけども、そういったことで、あるいはリフノスの窓口にいろいろ問合せがあったときに、リフノスのほうでそういったものをちゃんと記録して、そういう評価に資するような形になっているのか。

というのは、いろんなところからリフノスの悪い評価も聞こえるんですよ。いい話ばかりじゃなくてですね。

ですから、そういう正当というか、公正な評価をするに当たっては、幅広く意見を収集することが大事だと思うんですが、それをなされているのかどうかという点でお伺いします。

○委員長（伊藤 司君） 文化振興・リフノス係長。

○課長補佐兼文化振興・リフノス係長（鈴木厚広君） お答えいたします。

まず初めに、社会教育委員と同じ方をお願いしているということで、そちらの内訳をお話し申し上げます。

1人は婦人会関係の方、婦人会の会長になります。あと、文化芸術関係、こちらコーラス団体の代表の方、あと学校安全関係の方お1人、あと学校教育関係の方お1人、生涯スポーツ関係の方お1人ですね。あと社会教育学識経験者がお1人、あと読み聞かせのボランティアをいただいている方がお1人ですね。あと読書活動推進関係の方お1人、あと学校の校長先生というふうになってございます。

続きまして、評価の方法でございますけれども、先ほどお話し申し上げましたリフノスのほうで、自分で自己評価してくるということでお話を申し上げました。

その中で、成果指標の達成度というものがございます。そちらは、設けておりますのは年間利用者、来館者数の増加ということで数値を持ってございます。もう一つが利用登録団体の増加ということで数値を持ってございます。あと、年間の図書館の図書の貸出し冊数ということで目標数値を掲げてございます。こちらのほうでまずもって自己評価をしまして、我々のほうで確認をいたしております。

あと、利用される方の声の反映につきましては、施設の利用者アンケートというものをリフノスのほうで独自に実施してございまして、そちらのほうの目標値でございますけれども、満足度の目標値でございますけれども、そちらのほうを持っております。そちらを上回っているというふうな形に令和6年度はなっております。

あとあわせて利用される方々の声につきましては、リフノスのほうで特に苦情につきましては把握してございまして、その都度、我々事務局のほうに連絡をいただいているというふうな状況になってございます。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） ほかに質疑ありませんか。3番、須田聡宏委員。

○須田聡宏委員 では、お願いします。

説明書の216ページ、3項2目キャリアシップ事業についてです。

こちらのキャリアシップ事業は、中学生の職場体験を行う内容というふうに認識しております。こちらの内容のまず協力していただいている事業者さんの数、昨年度どうだったのかということと、近年の変異、増えているとか減っているとか、そういった状況を教えていただきたいと思います。

それから、こちらの事業の成果については、委員会ではどのように把握しているか教えてください。

もう1点です。

もう一つは、学校教育費に関わる様々な施策が組まれていると思うんですけども、こちらの中にある例えば支援員とか指導員、いろいろな支援のスタッフおりますけれども、こういった方々が自分の仕事の内容の技術向上、資質向上のために独自に研修を受けたいというふうに思った場合に、そういった参加費用みたいなものが予算化されているのか、そういったものはどこに計上されているのか、あれば教えていただきたいということと、同じように学校教員も自分の仕事内容で独自に研修を受けたいという場合には、そういった研修の参加費用というのは準備されているのかどうか。学校教員は県費負担職員でもありますので、そういったところ難しい部分があるかと思いますが、町としてのお考えをお聞かせください。

お願いします。

○委員長（伊藤 司君） 教育指導係長。

○課長補佐兼教育指導係長（島津恵子君） それでは初めに、216ページのキャリアシップ事業についてお答えいたします。

協力していただいている事業所数についてなんですけれども、令和5年度については92、それから令和6年度については108ということで、若干、前年度より多くなっております。

ただ、コロナ禍前、例えば平成30年は113、令和元年は108ということで、それに比べると、

令和5年度は一度、コロナ禍明け初年度ということで減少しましたがけれども、令和6年度についてはまた少しずつ戻ってきたのかなといったところでございます。

それから、成果についてなんですけれども、こちらのほうにつきましては、事業所それから保護者、生徒のほうから事後アンケートを実施しております。生徒には事前アンケートも実施しておりまして、5日間のキャリアシップの体験事業の前と後で生徒一人一人の気持ちの変化というものも見て取れるなど感じております。また、仕事の大変さとか、将来働くことへのイメージといったところでも、大分子供たちの中でも変化が出ているということで、この事業のやる意義ということで感じているところです。

また、保護者からのアンケートの結果では、親子間の会話の増加も見られるということで、ふだんはあまり会話がなかなかといった御家庭についても、この5日間を通してどのような仕事をしてきたというような会話が増えて、新しい子供の状況を感じれたというふうな結果も頂戴していますので、多方面からの成果というのが出ているのかなと感じております。

それから、支援員に関する研修についてなんですけれども、それぞれ個人が受ける研修に対しての支援、補助というのはしていないんですけれども、先ほどお話ししました、学校教育専門員のほうで教職員への研修のほかに特別支援コーディネーターやサポートティーチャーといったような支援員に対する研修も年2回しておりますので、そういったところで支援に必要な技術だったりというところを学んでいただいているところです。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 3番、須田聡宏委員。

○須田聡宏委員 御丁寧な説明ありがとうございます。

まず、キャリアシップのほうなんですけれども、事業所のほう回復、数ですね、回復しているということですのでごくいい取組ではありますので、これからもとは思いますが、なかなか受入れ事業者の方々を確保するというのはなかなか大変なことかと思います。今後は増えていくとか、確実にキープできればとは思いますが、各中学校のほうはその実施時期というのはずれているので、各事業者さんも何ていうんでしょう、固まってしまうと事業者受入れ厳しいと思うんですが、それは時期としてはずれているということで認識してよろしいでしょうか。

それから、研修のほうなんですけれども、今言ったように、学校のほうで研修を進めるということではあるんですが、教員のほうはやっぱなかなか難しいという状況ではあるんでしょ

うか。もう一度お願いします。

○委員長（伊藤 司君） 教育指導係長。

○課長補佐兼教育指導係長（島津恵子君） それでは初めに、私のほうからはキャリアシップに関係する事項についてお答えいたします。

キャリアシップの実施時期についてなんですけれども、3校とも全て同じ日にちで実施しておりまして、例年11月の中旬ぐらいに5日間で実施をしております。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 総務学事係長。

○総務学事係長（太田洋美君） 県費負担教職員の研修についてというところでしたけれども、県教育委員会において研修の実施計画等を作成しておりまして、それに基づいて研修センターにおいて実施している初任研や5年研など必ず受けなければならない研修、あとは先生方の希望での希望研修などそれぞれあるんですけれども、それらの費用については、県のほうの県費のほうで負担している状況でありまして、町のほうでは現在は支給はしておりません。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 3番、須田聡宏委員。

○須田聡宏委員 最後になりますけれども、キャリアシップのほうですね、期間5日間ということなんですけれども、例えばこの日数、もちろん充実した内容を求めるのであればこのぐらいの日数必要だということもあるかもしれませんが、事業者さんのほうから例えばもう少し長くとか短くとか、そういった要望とかありましたら状況をお聞かせいただきたいということです。

それから、教員の研修についてなんですけれども、指導員とかいろいろな支援員さん、スタッフもそうなんです、やはり自分が望む内容の研修を受けたいというのが非常にモチベーションなり技術アップにつながると思うんですね。

ですので、希望する研修を受けたいといったときは、やはり自費で参加するのが基本になってしまうのかなというところが、もしその後そういった形のサポートといいますか、支援が検討をしていただければ、考えていただけたらなというところがあります。お願いします。

○委員長（伊藤 司君） 教育指導係長。

○課長補佐兼教育指導係長（島津恵子君） それでは、キャリアシップについてお答えいたします。

業者の方々からの受入れ事業所からの日数についての要望ということなんですけれども、事業所アンケートをした結果では、やはり業種だったり事業所の規模だったりで回答は様々でして、今の5日間がやはり中学生が職業体験をするというところに効果があるのではということ、このままで希望するという業者さんもいらっしゃいますし、業者さんの事業所の事情などから3日間とか4日間とか短くなるというふうなお声もいただいているというところではございます。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 教育総務課長。

○教育総務課長兼学校給食センター所長（小野寺厚人君） お答えいたします。

町の教職員の研修のほうについてでございますけれども、なかなか県費負担教職員ということとで予算が県教委の旅費等になっているということもございます。

また、各学校の校長の許可が必要とか、そういったことにもなってくると思いますので、研修の内容にもよるとは思うんですけれども、今のところ、なかなかちょっと町教委のほうで予算措置というのは難しいのかなというふうに考えております。

以上でございます。

○委員長（伊藤 司君） ほかに質疑ありませんか。9番、浅川紀明委員。

○浅川紀明委員 1点だけ。

232ページの学校給食施設管理費関係で、学校給食費のことについてお伺いします。学校給食費に関して質問が1つ、それから提案が1つあります。

まず質問なんですけれども、実は今日、午前中だったですか、町民生活部の住民税だとか、町民税ですね、あるいは国民健康保険料についての徴収についての決算報告いただきました。それで、残念ながら滞納している方の状況についても数値として説明を受けたんですけれども、利府町において学校給食費を滞納している状況はどのような状況なんでしょうか。何人ぐらいということ。

それから、逆に言えば収納率として何%ぐらいということになるかと思うんですが、その状況をまず教えていただきたいのと、基本的に滞納した方に対しては、学校でなく、今、町として督促したり、あるいは場合によっては差押えとかいろんな対応せざるを得ない場合があるのかなと思うんですね。それは町民税だとかと同じだと思うんです。残念ながら、それを手を尽くしてもどうしても収納できなかったというときは不納欠損金としてまたこういった決算の場

で明らかにしなければならないのかなと思うんですが、それが表現されていないのでその辺のところを教えていただきたい。以上が質問関係ですね。

あと提案です。

実はこの前、仙台の国際センターで東北地域テックという催しがありました。自治体のデジタル化を進めるためのいろんなセミナーだとか展示がありました。

その中で目を引いたのが、私個人的に目を引いたのが、スクペという学校関係の給食費だとか学校に納めるお金を保護者が支払いやすいような、スマホを使って支払うためのスクペというものがありました。

これは七十七銀行の子会社が運営しているやつで、既に仙台市のほうでは全ての学校が導入して、それによって収納率がぐっと上がったと。メリットとしては、決済をする手数料が親御さんにとっても無料。一方で、収納する町にとっても無料ということで、普通ここにもちょっとありますけれども、口座振替手数料だとか、公金収納、コンビニ収納業務委託といったものに僅かな金額かもしれませんが、お金がかかっているところをスクペ、スクールペイですね、スクペを利用することによって、それがメリットが受ける側にもあるということで、提案としてはぜひ検索してもすぐ出ますし、スクペの運営管理会社に問合せして確認されたいかがでしょうか。

○委員長（伊藤 司君） 学校給食センター所長補佐。

○学校給食センター所長補佐（上總 綾君） 質問にお答えいたします。

まずは収納率なんですけれども、学校給食費の収納率、令和6年度につきましては、現年分が98.8%、それから滞納繰越分については5.61%、合わせまして89.96%になっております。

滞納のほうなんですけれども、令和6年度はやはり無償化が拡大されたことによりまして、令和5年度から比較しますと、件数それから金額的にも減っております。

件数につきましては、現年度分が30件、それから金額にしましては92万9,893円。過年度分がちょっと大きくありますので、合わせて921万円という形であるんですけれども、今現在、やはり毎月の督促を行ったりですとか、それから児童手当からの振替の申出があった方に関しましては、そういった申出を受けまして児童手当から振替をさせていただいたりですとかという形を取らせていただいて、滞納をできるだけ減らすような取組を行っております。

それから、今いただいた電子決済という形なんですけれども、学校給食費のほうもペイペイですとかラインペイとかといったような電子決済を取り入れておりますので、基本的に保護者

から手数料がかからず、町のほうはちょっと手数料がかかってしまうところがあるんですけれども、自宅からもそういった形のものを使っていただければ簡単に振込ができるようなものは行っているんですけれども、なかなかちょっと滞納が思うようには減らないというところがあります。

今現在、差押えといったような状況は行っておりませんが、今後、不納欠損を踏まえて、その辺り、十分に検討していきたいと考えております。

以上です。

○委員長（伊藤 司君） 9番、浅川紀明委員。

○浅川紀明委員 ぜひ収納率の改善のために、今、ラインペイだとかペイ、何とかペイで払えるようになっているということなんですけれども、受納者側の手数料もないというメリットも大きいですし、ぜひ確認してみてください。

○委員長（伊藤 司君） 学校給食センター所長補佐。

○学校給食センター所長補佐（上總 綾君） いただきました御意見、調べまして確認してみたいと思います。ありがとうございます。

○委員長（伊藤 司君） ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（伊藤 司君） 質疑がありませんので、以上で教育部の決算審査を終わります。

御苦労さまでした。当局は退席願います。

それでは、最終日に総括して質疑する事項の取りまとめ及び現地調査箇所の選定を行います。

質疑あるいは御意見はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（伊藤 司君） 総括質疑及び現地調査がないようですので、これで本日の決算審査特別委員会を散会します。

なお、明日は午前9時30分から特別委員会を再開しますので、御参集願います。

御苦労さまでした。

午後3時50分 散 会

上記会議の経過は、事務局長太田健二が記載したものであるが、その内容に相違がないことを証するためここに署名する。

令和7年 9月決算審査特別委員会会議録（9月8日 月曜日分）

令和7年9月8日

委 員 長